

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 松阪市社会福祉協議会

P 1	第1章 総括
P 2	第2章 法人運営部門
	1 概説
	2 事業シート
	(1) 法人の運営
	(2) 人材育成
	(3) 福祉関係施設の運営管理
	①指定管理施設の適正な運営及び利用の促進
	②社協施設の適正な運営及び利用の促進
P 10	第3章 福祉のまちづくり部門
	1 概説
	2 事業シート
	(1) 地域福祉活動計画事業の推進
	(2) 赤い羽根共同募金運動事業・助成事業の推進
	(3) 社会福祉大会事業
	(4) 総合相談事業
	(5) 資金の貸付事業
	(6) 受託運営事業
	(7) 包括的相談支援体制事業
	(8) ボランティアセンター事業
	(9) 日常生活自立支援事業
	(10) 地域後見センター事業
	(11) 生活困窮者自立支援事業
P 32	第4章 在宅福祉サービス部門
	1 概説
	2 事業シート
	(1) 在宅福祉サービス事業
	(2) 高齢者福祉サービス
	(3) 障がい者福祉サービス
	(4) その他の福祉サービス
P 47	第5章 資料
	1 法人運営部門
	2 福祉のまちづくり部門
	3 在宅福祉サービス部門

第1章 総括

令和3年度も緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され、新たな変異株も発生するなど、新型コロナウイルスの感染拡大は、社会や経済に大きな影響を及ぼしました。また、生活や行動様式の変容は、孤立・孤独の問題や、地域や人と人とのつながりや関心をより希薄化するなど社会福祉協議会が対応していく福祉課題や生活課題をより拡大させていきました。

このような中、本会は、それぞれの部門が役割を持ち、PDCAサイクルに沿って事業の進捗管理を行い、第IV期経営計画と第3期松阪市地域福祉(活動)計画の達成に向けて全職員が取り組みました。

事業運営においては、利用者や本会職員、家族にも感染者や濃厚接触者が確認されるなど、本会の事業展開に大きな影響がありました。しかし、令和2年度に試行錯誤した経験を活かし、各部門が事業内容や事業所業務、行事等の実施方法、感染防止対策を工夫することで運営することができました。これらのノウハウは、ウィズコロナやポストコロナの地域福祉において本会の強みになっていくものと考えます。

経営においては、令和3年度も施設・事業マネジメントを進め、年度末をもってグループホームいいたかの事業を終了いたしました。この他にも9事業を廃止または統合し、経営の持続可能性を高めていくことに取り組み、令和4年度に向けて施設・事業マネジメント担当監を配置する組織体制の見直しを行いました。一方で、地域共生社会の実現に向け、松阪市の委託により市役所内に「相談支援包括化推進員」を配置し、複数分野の福祉課題等の解決に向けた包括的相談支援体制を整備すると共に、令和4年度の「福祉まるごと相談室」の設置やコミュニティソーシャルワーカーの配置をはじめとした重層的支援体制整備の準備を進めました。

今後も本会は、松阪市とのパートナーシップを図り、長年培ってきた地域や関係団体とのネットワークを活かして“誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくり”を進めることで地域の信頼に応えていきます。



第2章 法人運営部門

1 概説

新型コロナウイルスの感染拡大は、他の部門と同様に法人運営部門の事業展開にも大きな影響を及ぼしましたが、各事業で創意工夫し、第IV期経営計画の達成に向けて適切な法人運営や事業の運営に努め、各部門や拠点の調整を行うなど法人全体のマネジメントにあたりました。また、社会福祉法人として求められる公益性を確保するため、法令遵守を図るとともに財務だけでなく事業所情報等の情報公開や内部監査等の法人ガバナンスにも積極的に取り組みました。

役員会等の運営においては、施設・事業マネジメントから事業所の存続について提案し、地域の状況や法人の経営について協議されました。

また、第6回理事会と第4回評議員会はオンライン形式で開催し、感染防止対策を図りました。

人事においては、人事ヒアリングを行うことで現場の声を人員配置に取り入れるとともに人材の確保と育成に努めました。

労務管理においては、働き方改革を進めて同一労働同一賃金に取り組み、非正規雇用者の待遇改善を行うとともに、感染防止や新しい働き方に対応するため在宅勤務規程を整備しました。また、オンラインシステムを活用することで令和2年度よりも研修の充実を図りました。

財務運営においては、持続可能な法人経営が行えるよう補助金・委託金の確保に努め、予算の適正な執行と経費削減に取り組みました。また、これまでの予算編成の仕組みを見直し、予算編成におけるPDCAサイクルを確立しました。

施設の管理・運営においては、新型コロナウイルス対応を優先し、休館または施設の一部利用を停止しました。再開以降は、安全に利用していただけるよう感染防止対策を徹底しています。

2 事業シート

(1) 法人の運営

(単位：円)

事業名	法人運営事業	事業シートNo 1-1
担当部署	総務課、松阪・嬉野・三雲・飯南・飯高各支所	事業費実績 326,238,832 (前年度比) 96%

【成果】

- 法人の重要機関である理事会、評議員会で施設・事業マネジメントの協議
- 定款や規程の改正を行い法令遵守に努めるとともに、新型コロナウイルス対応や新しい働き方に対応した規程(在宅勤務規程)を策定した。
- これまでと違う求人方法を実施し検証した(求人広告)
- 意見交換会を実施し、職員の意見や考えを令和3年度予算に反映した。(事業所利用定員の変更、施設診断費用、法務相談費用の計上など)
- 弁護士と契約し法人の法務分野を強化した。

【課題】

- 理事会などの役員会において、地域福祉の推進や法人の経営について幅広く議論して経営を進める。
- 意見交換会より得られた意見を、引き続き法人運営へ取り入れていくことが必要である。
- 新規事業など社協が求められる役割、人員の採用と人材の育成
- 施設診断に基づく計画修繕を見込んだ資金計画の見直し

【令和4年度への改善】

- 法人全体の危機管理体制(新型コロナウイルス感染防止を含む)の整備(BCPの策定)
- 嬉野ゆうゆうを含む指定管理施設の経営と事業継続について、法人として方向性を示していく。
- 配置(採用)や予算編成と連携させるための要員調査実施時期の見直し
- 求人方法の検証結果をもとに採用ツールの拡充

【活動実績(取り組み)】

- 役員会などの開催
 - ア 評議員会：4回
 - イ 理事会：6回(うち書面 1回)
 - ウ 監査会：2回
 - エ 評議員選任・解任委員会：1回
- 規程類の改正
 - 定款変更：2回 規程の新設：1件 規程の改正：34件
- 安定した経営の実現
 - ア 自主財源の確保 社協会費 9,260,660円(前年度比 2.47%減)
 - イ 内部監査：2回
- 衛生管理
 - 衛生委員会：12回

【財源内訳(単位：円)】

項目	金額	項目	金額
会費	9,260,660	雑収入	1,285,507

寄附金	1,061,057	助成金	2,731,513
補助金(松阪市)	173,570,000	固定資産売却	497,640
受託金(県社協)	2,926,800	積立取崩	11,687,500
事業収入	274,850	退職金取崩	18,361,147
負担金(協会事務)	500,000	繰入金(退職金掛金)	32,420,805
利息配当金	8,708,767	繰入金(自主財源)	62,952,586

(2) 人材育成

(単位：円)

事業名	職員研修事業 (本所)	事業シートNo 1 - 2
担当部署	総務課	事業費実績 1,860,433 (前年度比) 101%

【成果】

- 令和3年度採用職員に対し、入職時に社協職員の基本を学ぶ研修会を開催し、年度末には担当業務について学んだことを整理し発表する研修会を開催した。また、9月には所属部署の課長や支所長と面談し半年間の業務内容について確認する機会を作り、年間を通じて職員の育成に取り組んだ。
- 被考課者を対象として人事考課研修会を開催した。2次考課者をファシリテーターとしてグループワークを実施し、考課者・被考課者が意見を交わすことで、制度への相互理解を深めることができた。
- 緊急事態宣言の発出により一部予定を延期することとなったが、実習生2名を受け入れ、社会福祉士の養成ができた。
- 顧問弁護士を講師に迎え、ハラスメント研修を開催した。法的根拠とハラスメントについて理解を深めることができた。

【課題】

- 研修計画の策定だけでなく、新任職員研修のように年間を通じて行う研修プログラムが必要である。
- 人事考課において、考課結果を職員配置などへ反映する。
- 令和3年度入学者より、新カリキュラムとなるため、社会福祉士実習受入れについて、新カリキュラムに対応した体制を整備する。

【令和4年度への改善】

- 人事考課制度について、配置や職員研修プログラムなどへの考課結果の反映方法の検討、継続した研修の実施、アンケートに基づいた改善点の洗い出しと見直し
- 新カリキュラムに対応した社会福祉士実習プログラムの作成

【活動実績(取り組み)】

- 集合研修
新規採用職員研修、人事考課研修会、ハラスメント研修、交通安全講習など計9回
- 派遣研修(オンライン形式の開催含む)
キャリアパス対応生涯研修、BCP策定研修会、地域福祉コーディネーター研修会など計8回

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額
会費	1,860,433

(3) 福祉関係施設の運営管理

①指定管理施設の適正な運営及び利用の促進

(単位:円)

事業名	ハートフルみくも保健福祉センター事業(三雲)	事業シートNo 1-3
担当部署	三雲支所地域福祉係	事業費実績 19,249,499 (前年度比) 100%

【成果】

- 松阪市と連携して新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応に取り組んだ。
 - ア 休館(三重県緊急事態措置発出に伴い8/28~9/30)
 - イ 施設利用休止(入浴・カラオケ)
- 事業所の新型コロナウイルス感染者発生への対応に取り組んだ。
 - ア 休館(4/28~5/5)
 - イ 事業所休止(2/14~19、3/5~7)
 - ウ 館内・車両消毒など
- 自主事業を実施した。
 - 地域の風景・イベント写真展を実施(地域住民との協業)
- 松阪市と連携し施設設備管理に取り組んだ(センター防水修繕、浄化槽修繕など実施)。
- 危機管理活動に取り組んだ(津波避難を含んだ総合防災訓練を実施)。

【課題】

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で来館者数は大幅減となっている。地域福祉や住民交流の拠点として、発展性・持続性のある地域交流の場を提供していく。
- 施設設備について、老朽化での不具合箇所や突発的な故障など松阪市と密に連携を取り計画的に進めていく。

【令和4年度への改善】

- 地域における重要な住民交流の場として、健康増進器具の整備、学習室使用など若年層に向けた貸館、リハビリ機能を備えるカラオケ機器の活用、中央ホール掲示スペース開放な様々な工夫した取り組みを行い、幅広い世代を取り込んでいく。
- 設置から25年以上経過し設備の老朽化が進行しているため、継続して松阪市と連携した計画的な修繕を実施していく。
- BCPの策定に向けて、あらゆるリスクなど危機的な状況に遭遇したとき損害を最小限に抑え、必要な業務を継続的に行えるよう、自然災害に対する訓練を松阪消防や市防災対策課に相談しながら進めていく。
- 施設・事業マネジメントについて、関係部署と連携しながら取り組んでいく。

【活動実績(取り組み)】

- 自主事業
 - ア 地域の風景・イベント写真展実施(毎月)
 - イ 地域住民の協力を得て、毎回、テーマを決めて開催

○危機管理活動

ア 総合防災訓練の実施

イ 利用者参加による、通報、避難誘導、車両避難、初期消火の総合防災訓練を実施

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	19,199,076	雑収入	50,423

(単位:円)

事業名	ハートフルみくもスポーツ文化センター事業(三雲)	事業シートNo	1-4
担当部署	三雲支所地域福祉係	事業費実績 (前年度比)	27,059,183 100%

【成果】

○松阪市と連携して新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応に取り組んだ。

ア 休館(三重県緊急事態措置発令に伴い8/28~9/30)

イ 施設利用休止(ジム・アリーナ5/13~6/20)

ウ 時短営業(5/13~6/20、8/20~8/27)

○松阪市と連携し施設設備管理に取り組んだ。

空調設備(冷温水機)、ジムガラスフィルム貼付、通路床修繕など実施

○危機管理活動に取り組んだ。

津波避難を含んだ総合防災訓練を実施

【課題】

○3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、設備利用休止や時短営業が相次いだ。

感染対策を徹底し、スポーツやレクリエーションを通じた住民交流や健康増進の場を提供していく。

○施設設備について、老朽化での不具合箇所や突発的な故障など松阪市と密に連携を取り計画的に進めていく。

【令和4年度への改善】

○スポーツや文化を通じた住民交流の拠点として、新たに、子ども会、放課後児童クラブのスポーツイベントやコミュニティースクール各種講座・教室開催の誘致など、更に幅広い世代に活動の場を提供するなど活性化に向けた取り組みを行っていく。

○設置から25年以上経過し設備の老朽化が進行しているため、継続して松阪市と連携した計画的な修繕を実施していく。

○BCPの策定に向けて、あらゆるリスクなど危機的な状況に遭遇したとき損害を最小限に抑え、必要な業務を継続的に行えるよう、自然災害に対する訓練を松阪消防や市防災対策課に相談しながら進めていく。

○施設・事業マネジメントについて、関係部署と連携しながら取り組んでいく。

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	23,942,889	雑収入	15,410
利用料	3,008,610	自動販売機手数料収入	92,262
受取利息配当金収入	12		

(単位：円)

事業名	飯南ふれあいセンター事業（飯南）	事業シートNo 1－5
担当部署	飯南支所地域福祉係	事業費実績 10,858,670 (前年度比) 101%

【成果】

- 施設設備の修繕を進めることができた。
 - ア トイレの洋式化への変更及び照明器具取替(LED)
 - イ 水道蛇口の取替(自動)
- コロナ渦においても感染防止対策を継続して運営ができた。

【課題】

- 感染症対策を行いながら貸館業務を引き続き継続していく必要がある。
- 建物の老朽化に伴う計画的な修繕が増えてきている。

【令和4年度への改善】

- 地域交流拠点として、関係機関等と連携を行いながら広く周知を行い貸館業務への対応を引き続き継続していく。
- 施設設備について、修繕箇所含め松阪市と協議し、計画的に対策を進めていく。

【活動実績(取り組み)】

- 自主運営事業（感染予防研修）

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	10,855,370	利用料	3,300

(単位：円)

事業名	飯南高齢者生活福祉センター事業（飯南）	事業シートNo 1－6
担当部署	飯南支所地域福祉係	事業費実績 13,188,936 (前年度比) 96%

【成果】

- 居住入居者について、転居への支援を松阪市と連携を行いながら対応ができた。また、コロナ渦においても感染防止対策を行いながら、貸館業務及び自主運営事業が運営できた。

【課題】

- 施設管理運営における感染症対策を行いながら、貸館業務及び自主運営事業を引き続き行っていく必要がある。
- 施設の老朽化に伴い修繕箇所が増えてきている。
- 施設・事業マネジメントにおける課題整理を行っていく必要がある。

【令和4年度への改善】

- 地域福祉拠点施設として、高齢者の健康、生きがいを高める自主事業、また、子供から高齢者まで幅広い世代の交流の場として自主運営事業の実施を行い、地域支援・個別支援につなぐ。
- 施設設備について、修繕箇所含め松阪市と協議し、計画的に対策を進めていく。

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	12,761,055	利用料	427,936

(単位：円)

事業名	飯高高齢者生活福祉センター事業（飯高）	事業シートNo 1－7
担当部署	飯高支所地域福祉係	事業費実績 14,473,687 (前年度比) 96%

【成果】

- 緊急時の発電機の換装が完了。計画的に大規模修繕を実施してもらい、設備の更新を行っている。
- 各入居者のニーズに柔軟に対応しており生活しやすい環境を提供している。虐待ケースの保護にも対応し、リスクを回避できた。

【課題】

- 大規模修繕に関して施設の老朽化も含め今後も振興局と連携を密にし実施していく。
- 入居者が3年度末で3名と減少していることから、一定期間(3～6ヶ月)の入居ではあるが独居に不安がある方に居住環境を提供していることを周知していく必要がある。
- 貸館による地域交流拠点としての活用や自主事業の実施

【令和4年度への改善】

- 館内トイレを和式から洋式への改修と建物全体の雨漏りの修繕を実施予定
- 飯南・飯高管内だけではなく、市内全体に居室の周知を行い入所の繋ぐ役目として機能していく。
- 地域交流拠点となる幅広い世代が活用できる仕組みづくり。

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	13,752,037	利用料	721,650

②社協施設の適正な運営及び利用の促進

(単位：円)

施設名	松阪支所（松阪）	事業シートNo 1－8
担当部署	松阪支所地域福祉係	

【成果】

- 多職種連携によるネットワークの共有により新たなサービスの提供につながったほか、地域交流センターとの連携による企画事業の実施によって、幅広い世代の利用促進や新規団体の貸館利用者を獲得することができた。また、支所敷地内への地域の掲示板設置により、近隣住民へ直接的に支所のPRを行うことが可能になった
- 支所受付案内カウンターでの集中対応により、館内の感染拡大対策を行ったほか、コロナ禍におけるサテライトオフィス対応の環境整備ができた
- 支所内各事業所の防災マニュアルの一本化と、支所の防災計画、訓練実施要領や非常時用各種訓練ツールなどの再整備を行った。また、備蓄品や非常時における支所建物の機能について地域へ周知を行った。

【課題】

- 感染防止対策を整えたうえでの貸館利用について広く周知を行い、引き続き新規利用者を獲得していく。
- 災害ボランティアセンターマニュアル策定についての進捗状況を確認し、支所防災マニュアルとの整合性について確認のうえ、実際に運用可能な状態にしておくことが必要

○アンダーパス往来上の支所案内看板が電柱埋没計画により撤収となったため、新たな案内方法を検討する必要がある

【令和4年度への改善】

- ボランティアセンターの災害マニュアルと支所防災マニュアルの連携
- 会議室等貸館対応の部屋の有効活用について、松阪市ほか関係機関の協力のもと利用促進を行う
- 地域掲示板の有効活用や、支所の所在地案内に関する整備

(単位：円)

事業名	社会福祉センター管理補助事業（嬉野）	事業シートNo 1－9
担当部署	嬉野支所地域福祉係	事業費実績 8,877,414 (前年度比) 78%

【成果】

- 施設設備の修繕を進めることができた。
 - ア 空調機器予防修繕(1階系統)
 - イ 受変電設備入替工事
 - ウ 施設診断の実施
- 赤い羽根共同募金を財源とした新規事業を実施し、新たな参加者層(小中学生)の獲得と社会福祉センターの周知をすることができた。
 - ア 防災フェスタ2021
 - イ 嬉野マルシェ・作品交換展示
 - ウ 缶易トイレづくりと今日からできる防災対策

【課題】

- 施設診断結果をふまえた、建物の方向性(大規模修繕・建て替え)の検討
- 新型コロナウイルスなど、施設管理運営における感染症対策

【令和4年度への改善】

- 計画的な修繕と財源の確保
- 地域交流拠点とするため幅広い世代が活用できる仕組みづくり

【活動実績(取り組み)】

- 社会福祉センター自主事業(就労継続支援B型事業所自主製品提示(3事業所→5事業所へ拡大)、★のびのびBABY・KIDSひろば★)
- 赤い羽根共同募金配分事業(防災フェスタ、嬉野マルシェ・作品交換展示会、缶易トイレづくりと今日からできる防災対策)
- 赤い羽根共同募金運動(恵カフェ)
- 嬉野地区福祉会事業(写真展示)
- 地域交流拠点とするため幅広い世代に活用できる仕組みづくり(世代間交流を目的とした宅老所による体操事業)の企画・立案

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
補助金(松阪市)	7,694,000	繰入金(自主財源)	878,414
利用料	305,000		

第3章 福祉のまちづくり部門

1 概説

新型コロナウイルスの影響の中で地域活動が少しずつ再開してきたものの、地域にとっても活動を進めるのかコロナ感染を防ぐことに重点を置くのかと決断が分かれた年でした。地域担当者は地域と一緒に悩み寄り添い、他の地域の考え方や活動を伝えながら、コロナ感染対策を徹底することで活動再開できるよう支援を行ってきました。

生活困窮者自立支援、コロナ特例貸付けは令和2年度のピークの相談時より件数は減少したものの、今でも新型コロナウイルスの影響を受け、生活に困る方の相談が断続的に続いています。継続して行ってきた食糧支援では、十分ではないながらも企業との連携体制を作ることができました。また、飯南地域では民生委員担当エリア内で人材を発掘することを目的とした仕組みづくり(ステップアップ事業)として、2カ所のモデル地区を選定し地域住民の理解を得ながら「声かけ」「あいさつ」「気遣い」「見守り」「助け合い」の大切さを啓発し定着させていく取り組みへと向かう運びとなりました。

赤い羽根共同募金では例年通りの街頭募金や民生委員による法人募金運動ができない中で、職員による法人回りやUMOUプロジェクト、百貨店プロジェクト、自動販売機の設置推進などの運動に力を入れました。

令和4年度の松阪市の重点施策となる重層的相談支援体制整備においては、社会福祉協議会がこれまで推進してきた支援体制について松阪市と何度も協議を重ね共通認識を持ちました。

その結果、全世代型相談モデルとなる「福祉まるごと相談室運営業務」3カ所のうちの嬉野、飯高の福祉職と、どこの支援機関にも属さない相談をつないでいく事業である「アウトリーチ及び参加支援事業」を受託する運びとなりました。また、令和3年度に受託した相談支援包括化推進員については、松阪市としてひきこもり支援に力を入れていくことを含め、協議を重ねることで令和4年度からは「多機関協働事業」と「ひきこもり支援推進事業」の2本立てで受託することとなりました。

令和3年9月から始まった第4期地域福祉(活動)計画策定委員会では、これまでの計画の流れを基本とし、重層的相談支援体制を含めた改良版として進め、令和4年度完成の予定です。

2 事業シート

(1)地域福祉活動計画事業の推進

(単位：円)

事業名	地域福祉活動計画事業(本所)	事業シートNo 2-1
担当部署	福祉のまちづくり課地域福祉係	事業費実績 10,314,320 (前年度比) 93%

【成果】

- 昨年度より継続する新型コロナウイルスの影響にて地域福祉活動が停滞する中、「人づくり」「場づくり」「ネットワークづくり」の3つの推進チームおよび43地区地域支援計画を中心に活動推進に取り組んだ。地域と共に考えコロナ過においても「つながる」地域福祉活動を実践した。
- 新型コロナウイルスの影響にて増加を続ける困窮者支援のため、食糧支援など企業との新たな仕組みづくりに取り組んだ。
- 第4期地域福祉(活動)計画策定に向けた実行委員会がスタート。第3期地域福祉(活動)計画の評価及び地域課題の抽出のため43地区地域ヒアリングを実施し、現状の分析を行った。
- 松阪市における重層的相談支援体制の構築・福祉まるごと相談室の設置に向けて、松阪市と協議を重ね地域担当およびコミュニティソーシャルワーカーの役割を整理し、令和4年度新規事業(アウトリーチ・参加支援)へつなげた。

【課題】

- 第3期地域福祉(活動)計画を推進する事業を行う中で、職員が地域課題モデルとして進めたきっかけを住民主体となる事業にしていくことが難しい。
- 第4期地域福祉(活動)計画策定において、地域支援からの側面に相談支援機関から見える課題も加え、地域も相談支援機関も共に解決の出口を目指せる計画にする必要がある。
- 松阪市地域福祉(活動)計画を地域の相談支援機関や住民自治協議会にも広く周知が必要である。

【令和4年度への改善】

- 松阪市地域福祉(活動)計画推進と新計画の策定
 - ア 「人づくり・場づくり・ネットワーク」づくりにおいて計画の推進
 - イ 社協が中心となり行う事業展開から住民が主体となる事業の展開
 - ウ 生活困窮者支援を入り口とした協力体制の確立
 - エ 地域支援・個別支援の視点を入れた第4期地域福祉(活動)計画策定
- 地域福祉(活動)計画の周知
 - ア 社協内職員向け研修会を行う
 - イ 地域担当者は地域支援の際、地域福祉(活動)計画と各地域計画の連動性を意識して支援に取り組む

【活動実績(取り組み)】

- 第3期松阪市地域福祉(活動)計画推進
 - ア 飯南・飯高地区見守りネットワーク化モデル事業【人】
 - イ コロナ禍における地域福祉活動の実践と活動事例集の作成【人・場・ネットワーク】
 - ウ 生活困窮支援を通じた協力体制づくり(生協協定・お米・生理用品寄付)【ネットワーク】
- 第4期松阪市地域福祉(活動)計画策定
 - ア 策定委員会の開催2回(9月、1月)

イ 43地区住民自治協議会への地域ヒアリング実施

- 小地域福祉活動推進 小地域福祉活動助成 34地区 総額：8,986,320円
 地域ふれあい活動：2,278,079円(29件) 福祉活動啓発：902,340円(28件)
 見守りネットワーク活動：315,000円(13件)要配慮者等食事サービス：3,821,298円(29件)
 福祉教育活動：1,059,088円(23件) 在宅介護者のつどい：150,000円(6件)
 子どもの居場所づくり：460,515円(12件)
- コミュニティーソーシャルワーカーによる個別支援・地域支援・仕組みづくり
 個別支援件数：303件 地域支援件数：10件 仕組みづくり件数：9件

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
補助金(松阪市)	9,049,000	繰入金(自主財源)	1,265,320

(2)赤い羽根共同募金運動事業・助成事業の推進 (単位：円)

事業名	住民・障がい者・高齢者・児童福祉活動事業	事業シートNo	2-2~5
担当部署	福祉のまちづくり課地域福祉係 松阪・嬉野・三雲・飯南・飯高各支所	事業費実績 (前年度比)	27,875,688 130%

【成果】

- 運動事業
 - ア 三重県共同募金会と自動販売機メーカーとで覚書を結ぶ支援を行い、赤い羽根自動販売機の設置を推進した。
 - イ UMOUプロジェクトの啓発では、市のゴミ分別ガイドブックやチラシなどで周知することで前年度比約4倍の数が集まった。
 - ウ 各支所にガチャガチャを設置し共同募金に関心を持つきっかけ作りをした。
 - エ YouTubeアカウントとLINE公式アカウントを開設。新たな層が共同募金へ関心を持つきっかけを作り、多世代への情報発信ツールを整えた。
 - オ 五大システムを利用し、募金実績の管理、データの分析をできるようにした。
- 社会福祉協議会配分事業見直し
 - ア 助成団体へのアンケート調査により「活動場所」に困りごとを持つ団体が多いことが明らかになった。また、共同募金を財源とした助成であることの認識はほとんどの方が持っていることが分かった。
 - イ 課題とされていた助成金の見直しを行った。
- 社協事業
 - <住民>
 - ア 夏休みの学校給食がない期間に「お米で応援プロジェクト」を実施。106世帯、345名(うち子どもは134名)の方にお米を提供。
 - イ 「生理用品をあたり前に」を支援。各小中学校や松阪商工会議所女性部会と協同アンケート調査から生理用品に関する需要は高いことが明らかになった。
 - ウ 食糧提供などを通じた生活支援として「あったかプロジェクト」を福祉会館と第一隣保館で実施。
 - エ 社協だよりの発行を年6回実施、2月にLINE公式アカウントを取得し、2回発信を行った。

オ 地域福祉教育として小中学校へ出前講座を実施。

カ コミュニティバス(鈴の音バス・おおきんバス)への協賛

キ ふらっとカフェなど居場所づくり。

ク 共同募金のPRを兼ねた取り組みで、初めての試みとなる中学校や障がい事業所とのコラボを実施。

<障がい者>

障がい児・者クリスマスパーティーを開催。当事者・ボランティアが一堂に集まる機会が作れた。

<高齢者>

ふれあいサロン向けに防災講座を実施。非常持出袋や非常食について啓発を行った。

<児童>

ア 小学校1年生へ交通安全を目的とした傘を贈呈。対象1,300人

イ 子育て世代向けに防災講座や音楽講座を開催

ウ こども園の児童と老人クラブや民生委員とが昔遊び交流会を開催

エ 子どもの居場所の一環としてクリスマス会を開催

○助成事業

市内で助成メニューを統一したことで、助成金を活用した活動が住まいによって制限されなくなった。

<住民>

受配団体の助け合いサービスの立ち上げについて、地域包括支援センターと団体が連携ができるよう後方支援。

<障がい者>

障がい当事者団体や障がい福祉施設への助成を通じた地域との交流が図られた。

<高齢者>

老人クラブや宅老所活動への助成を通し、市内各地で集いの場やいきいきと過ごす場づくりができた。

<児童>

子どもの居場所づくりは前年度から継続した活動ができた。

【課題】

○たくさんの寄付をいただく中で、受ける一方になっている。報告・お礼を丁寧にするすることで社協をより応援してもらおう。

○団体支援をする中でのノウハウが乏しい。

○コロナ禍の影響を受け、団体の継続した活動に支障が生じている。

【令和4年度への改善】

○取り組んだ内容をさまざまな媒体で発信するなど、寄付者への事業の報告やお礼の方法を見直し、次に応援してもらおう。

○受配団体の活動が地域に根付くように、長く続けられるように社協として積極的な支援とノウハウを学ぶ。

○共同募金の理解を深めるためにYouTubeやLINE公式アカウントを積極的に活用していく。

※障がい者については参加費収入

【活動実績(取り組み)】

<住民>

- 市民活動助成 5団体 383,000円
- 福祉活動助成 5団体 397,400円
- (上半期)地域福祉活動推進助成 38団体 3,350,000円
- 歳末たすけあい地域福祉活動推進助成 29団体 1,515,000円
- 小地域福祉活動団体助成 35団体 4,329,424円

<障がい者>

- 福祉活動助成 6団体 420,000円
- 障がい者施設団体行事助成 15団体 520,000円

<高齢者>

- 福祉活動助成 2団体 120,000円
- 宅老所活動支援助成 83団体 1,469,200円

<児童>

- 子どもの居場所づくり助成 4団体 296,000円
- 子ども行事助成 165団体 3,144,600円
- 子育てサークル 4団体 80,000円
- 放課後児童クラブ 15団体 545,000円

【財源内訳(単位:円)】

	住民	障がい者	高齢者	児童
一般	9,941,988	1,828,000	2,454,000	6,587,000
歳末	2,717,000	44,000	—	70,000
雑収入	26,800	—	—	—
参加費収入	—	9,900	—	—
助成金収入	300,000	—	—	—
前年度繰越	856,982	717,170	317,806	2,005,042

(3)社会福祉大会事業

(単位:円)

事業名	社会福祉大会事業	事業シートNo 2-6
担当部署	福祉のまちづくり課・総務課	事業費実績 1,596,000 (前年度比) 31%

【成果】

- 「今だから みんなで助け合う 地域のふくし」をテーマに、事前収録オンデマンド配信 (YouTube)とすることで開催。社会福祉功労者の顕彰、ありがとう三行詩の表彰、基調講演「地域から始める初めてのSDGs」を実施し、第3期地域福祉(活動)計画の基本理念である「地域の絆による支え合いのまち松阪」の推進を図ることができた。
- YouTube配信という新たな試みについて、視聴が難しい世代もあるとの意見もあったが、「足が悪いので会場へ出向くことができないが、オンデマンド配信で参加ができた。」「講演会の聞き逃した部分などを繰り返しで聞ける」と前向きな意見も得られた。また、通常の表彰では被表彰者と表彰者が話す時間が取れないが、事前録画の機会に詳しく活動内容を話すことができ良かったという声も聞かれた。

○多世代にICTが普及していること、今後のイベント開催や情報発信の手法となることが確認できた。

【課題】

- 費用対効果に視点をおいた大会運営企画。
- 地域福祉の意識の醸成のため多様な世代が容易に参加できる方法での実施。
- 三行詩を地域福祉活動の推進に活用。
- 記念品を障がい事業所から募集するためのスケジュール管理。

【令和4年度への改善】

- コロナにより得られたさまざまな手法を用い、来場が難しい場合も参加できる方法を確保する。
- ありがとう三行詩を地域福祉の推進に活用していく。

【活動実績(取り組み)】

- 社会福祉功労者の顕彰：49名 38団体
- ありがとう三行詩：応募数1,014点 入選者27名
- 配信申し込み：アドレス登録178 再生回数260
- 配信視聴会の実施：三雲支所(被表彰者団体) 飯高支所(地域福祉活動団体)

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
補助金(松阪市)	798,000	繰入金(自主財源)	798,000

(4)総合相談事業

(単位：円)

事業名	総合相談支援事業	事業シートNo 2-7
担当部署	福祉のまちづくり課地域福祉係 松阪・嬉野・三雲・飯南・飯高各支所	事業費実績 3,779,000 (前年度比) 100%

【成果】

- 心配ごと相談について、緊急事態宣言、まん延防止期間中は相談員による相談を中止したが、職員が電話やメールで心配ごと相談に対応した。
- 心配ごと相談員研修を資料配布による研修として実施した。「心配ごとという幅広いところだから受けとめられる相談がある。」「どんなことでも誰かに相談できる場である。」などの意見が寄せられ、現状の相談事業の意義を確認できた。
- 法律相談については、zoomの活用により、コロナ禍でも中止することなく、市民の法律的な困りごとについて解決の機会を提供し、市民生活の安定を図った。
- 社協の福祉相談拠点として、高齢・障がい・児童等の各領域、または医療・保健・福祉等の各分野、および生活を軸とした領域や分野を超えた総合的・横断的な相談を受け、適切な機関や制度へつなぐための支援を行った。

【課題】

- 心配ごと相談員について、旧町では、民生委員・児童委員が行う心配ごと相談を継承しているが、相談実績がほとんどなく、役割の見直しや整理が必要。

【令和4年度への改善】

- 心配ごと相談について、コミュニティソーシャルワーカーが地域ごとの課題を確認し、重層的支援体制整備との連携も踏まえた上で、心配ごと相談支援事業の役割を見直していく。

○社協職員が行う総合相談について、コミュニティソーシャルワーカーへ引き継ぎ、新しく受託するアウトリーチ等を通じた継続的支援、参加支援の軸としていく。

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
補助金(松阪市)	3,442,000	繰入金(自主財源)	337,000

(5)資金の貸付事業

(単位:円)

事業名	生活福祉資金貸付事業	事業シートNo 2-8
担当部署	福祉のまちづくり課地域福祉係 嬉野・三雲・飯南・飯高各支所	事業費実績 6,151,133 (前年度比) 97%

【成果】

- コロナ特例貸付の受付期間の延長や様式の変更が繰り返されたが、相談者の不利益にならないよう個々に合わせた対応を行った。
 - ア 英語版の申請書・案内チラシ等の作成や翻訳機を活用し外国籍の方が安心して相談できる体制を整えた。
 - イ 生活相談支援センターや保護課、産業支援センターなどの関係機関との連携により、相談支援の充実を図った。
 - ウ 相談窓口において、地域住民や企業、団体からの協力により寄せられた、食料や生理用品、オムツなどの生活用品の配布を行った。
- 教育支援資金について、保護課等の関係機関、教育機関向けに積極的な啓発を行ったことにより、連携が得られ貸付を通じた進学支援が充実された。また、民生委員へ事業説明を行い意見書の作成や償還通知の届けによる見守り支援について理解を得た。
- 長期・複数回返済滞納者に対して生活相談支援センターと協働し手紙や電話、訪問等の相談支援により償還に繋がった。

【課題】

- 生活の立て直し支援としての貸付には限界があるため、貸付が効果的な生活の立て直し支援となるように、生活相談支援センターや保護課との協働による相談支援の充実が必要。
- 通常時から家計管理に課題のある方がコロナ特例貸付がきっかけで相談につながることもあるため、家計改善支援が必要な方への情報提供やコロナ特例貸付の窓口の相談支援の充実が必要。

【令和4年度への改善】

- 償還免除者の相談支援窓口を充実する。
- コロナ特例貸付について、生活相談支援センター、特に家計改善支援事業との連携により償還支援を行う。
- 生活相談支援センターとの協働による貸付窓口を行い通常時から家計管理に課題のある方への情報提供や相談支援の充実させる。

【活動実績(取り組み)】

- 特例貸付/緊急小口資金・総合支援資金(初回・延長・再貸付)申請数：593件 251,400,000円
- 教育支援資金/教育支援費・就学支度費：24件
(生活相談支援センターと協働2件・生活保護世帯2件)
- 緊急小口資金：12件(生活相談支援センターと協働10件)

- 要保護世帯向け不動産担保型生活資金：継続支援1件
- 福祉費：4件(生活相談支援センターと協働2件・生活保護世帯2件)
- 来所相談：1,298件 電話相談：918件

【 財源内訳(単位:円) 】

項目	金額
受託金(本所)	6,151,133

(単位：円)

事業名	つなぎ資金貸付事業	事業シートNo 2-9
担当部署	福祉のまちづくり課地域福祉係	事業費実績 90,000 (前年度比) 56%

【 成果 】

- 生活保護世帯の不測の事態による窮状を助けることができた。
- 相談支援機関として、個人の生活課題を発見し必要な支援へつなぐことができた。

【 課題 】

- 主な貸付実績は毎年保護費の紛失や家電購入であり、金銭管理支援が必要な方が多い。
- 生活困窮者の不測の事態やライフラインの復旧などに活用できる資金が必要。

【 令和4年度への改善 】

- 生活困窮者やコロナ禍からの生活の立て直しを支援できる資金への見直しを検討する。

【活動実績(取り組み)】

- 貸付実績：5名 償還者：9名
- 生活保護担当者と貸し付けが必要となった状況の共有、借入ではない方法や生活福祉資金の提案、日常生活自立支援事業や成年後見制度へのつなぎなど相談支援を行った。

【 財源内訳(単位:円) 】

項目	金額
償還金	141,000

(単位：円)

事業名	育英基金貸付事業(飯南)	事業シートNo 2-10
担当部署	飯南支所地域福祉係	事業費実績 2,086,250 (前年度比) 198%

【 成果 】

- 飯南町在住の飯南中学校と飯南高校生徒の保護者に対して事業の周知及びアンケート実施にて新規申請希望者1名があった。
- 運営委員と給付型も含め基金の有用活用について検討した。

【 課題 】

- 給付型事業として行う際の事業詳細について当会内、運営委員との協議が必要である。
- 低所得者向けの給付型奨学金があることで申請希望者がなくなってきている。
- 滞納者への貸付金返還の方法

【 令和4年度への改善 】

- 給付型開始に向けて財源等を含め内容決定
- 地域に向けての育英基金についての周知
- 滞納者へ向けて運営委員との同行訪問を実施

【 財源内訳(単位:円) 】

項目	金額	項目	金額
償還金	1,834,000	利息配当金	252,250

(単位：円)

事業名	保育士修学資金貸付事業	事業シートNo	2-11
担当部署	福祉のまちづくり課地域福祉係	事業費実績 (前年度比)	18,165,940 154%

【 成果 】

- 松阪市の保育士確保と定着を図るため、保育士資格を取得後市内の保育所で働く意欲を持った学生(指定保育士養成施設)に修学資金の貸付を行った。(令和2年度・令和3年度入学者)
- 平成30年度入学者10名のうち7名が市内保育園等へ就労。(1名は大学在学中のため返還猶予を決定、返還免除対象外施設就業者2名は返還)
- 松阪市内で保育士として就業せず、貸付金返還となる方が多くなっているため、応募様式に本人の想いを表す「意思確認様式」を追加。また、これまでの高等学校からの推薦書に「意思確認様式」の内容を加えた内容とし募集を行った。
- 募集期間を2月まで延長することで県内の高等学校7校から12名の応募があった。
- 給付型奨学金の拡充で低所得者世帯の申し込みが減ったが、他の制度が利用できない狭間の所得世帯が資金の利用により進学が可能となった事例があった。

【 課題 】

- 事業目的である保育士確保を達成するためには、修学時の貸付以外の方法など検討が必要
- 返還期間が4年以内であるため、通常の奨学金より返還時の負担が大きい。

【 令和4年度への改善 】

- 保育士確保のため、審査において保育士就業の適性を反映できるように、審査委員の意見をもとに審査基準の見直しを行う。
- 事業を通じた養成学校や就業先の保育園等とのつながりにより、借受人への相談支援や地域の福祉活動への参加提案を行うなど地域福祉活動推進の契機とする。
- 松阪市と事業目的達成のための見直し提案の場を持つ。

【活動実績(取り組み)】

- 令和2年度入学者へ貸付金を送金(前期9名 後期9名)
- 令和3年度入学者へ貸付金を送金(前期10名 後期10名)
- 令和2年度入学者貸付金返還手続き(1名)
- 令和元年度入学者貸付金返還手続き(2名)
- 平成30年度入学者貸付金返還手続き(1名)
- 募集期間：令和3年9月1日～令和4年2月25日
- 第1回保育士就学資金貸付(猶予)審査会：令和3年5月18日 猶予8名
- 第2回保育士就学資金貸付(猶予)審査会：令和4年3月14日 貸付予約者10名 猶予1名

【 財源内訳(単位:円) 】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	14,877,000	償還金	3,300,000
繰入金(自主財源)	4,420,223		

(6)受託運営事業

(単位：円)

事業名	配食サービス事業	事業シートNo 2-12
担当部署	嬉野・三雲・飯南・飯高各支所	事業費実績 552,300 (前年度比) 25%

【成果】

- 地域のボランティア団体の協力のもと事業を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、何度も中断せざるを得ない状況で、安定的な事業を実施することはできなかった。
- 事業中断中の見守りについては民生委員や地域の在宅サービス事業者との協働により補完することができた。
- 民間の配食事業所、地域の福祉団体へ事業の引継ぎを行い事業受託を終結した。
- 今後は地域の実情により地域の福祉団体による活動が行われていくため、活動開始の支援や担い手の確保支援を行っていく。

【活動実績(取り組み)】

拠点	嬉野支所	飯南	飯高支所
回数	19回	12回	11回
食数	232食	516食	145食

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	276,000	利用料	276,300

(単位：円)

事業名	緊急通報装置貸与事業	事業シートNo 2-13
担当部署	松阪・嬉野・三雲・飯南・飯高各支所	事業費実績 67,000 (前年度比) 96%

【成果】

- 地域担当者と民生委員・地域包括支援センターなど関係機関との連携により、調査事業を通じた地域課題の把握ができた。
- 松阪市と協議の結果、高齢者福祉に特化した機関での調査が望ましいという結論の元、事業受託を終結した。

【活動実績(取り組み)】

拠点	松阪支所	嬉野支所	三雲支所	飯南支所	飯高支所
調査数	44件	10件	5件	3件	1件

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額
受託金(松阪市)	67,000

(単位：円)

事業名	高齢者ボランティアポイント事業	事業シートNo 2-14
担当部署	福祉のまちづくり課地域福祉係	事業費実績 2,836,888 (前年度比) 109%

【成果】

- 新規登録者数前年度比3人増(令和2年14人⇒令和3年17人)
- 新型コロナの影響を受けて、活動受け入れ先が主として高齢者施設であることからボランティア活動受け入れ中止が相次いだ。しかしコロナ禍でも感染対策を講じながら継続して事前オリエンテーションを開催、また研修交流会も会場を分けてポイント還元手続きと合わせて実施することができた。コロナ禍での活動については、少しでも活動員の不安軽減に努めるため丁寧な相談対応に努めた。
- 社協だよりによる事業啓発を行い、事業に関する問い合わせが増えた。

【課題】

- コロナ禍で活動再開が見通せない高齢者入所施設が多く、活動員の取消が多くなっている。
- 事業の継続性、周知方法、ポイント還元方法の簡素化など松阪市と協議が必要である。

【令和4年度への改善】

- コロナ禍の状況を見ながら、活動再開に向けて休止されている活動員とのつながりの回復を行う。
- 高齢者に適した周知の手段強化(公民館や市民センター、活動団体などへ)
- 事業の継続性、ポイント還元方法の簡素化などについて松阪市と協議する機会を持つ。

【活動実績(取り組み)】

- ボランティア登録数(213名)
- オリエンテーションの開催(5回、17名参加)
- 活動員(ささえさん)の研修交流会(3回、34名参加)
- ポイント転換交付金(83名対象、総額 288,000円)
- コロナ禍での感染対策を講じた活動への相談支援

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	2,387,380	繰入金(自主財源)	449,508

(単位：円)

事業名	児童発達支援地域スクール事業	事業シートNo 2-15
担当部署	福祉のまちづくり課地域福祉係	事業費実績 5,533,725 (前年度比) 117%

【成果】

- 開催日数
令和2年度は1日も開催できなかったが、今年度は定員を半分に減らし時間短縮・飲食なしとすることで、まん延防止等重点措置の影響も受けたが、全18日のうち夏季5日、冬季2日の7日間開催することができた。
- コロナ禍での取り組み
感染対策としてボランティアを市内在住者に限定し、参加2週間前からの行動・検温チェック、手洗い消毒の徹底を行い、感染者を出すことなく実施できた。

○地域共生への取り組み

スクールの目的とする「地域との交流」について、実行委員で話し合いの機会を持った。目的達成に向けてプログラム内容の見直し、開催地域のボランティアへの呼びかけを工夫し、地域共生の第一歩として事業を実施する方向で話がまとまった。

【課題】

- コロナ禍で密にならない工夫をしても、密を防ぎきれない。
- 参加人数が減少してきているため、周知の工夫が必要。
- 地域共生に向けた地域での受け入れ。

【令和4年度への改善】

- 地域共生に向け、地域担当者を通じた住民自治協議会へのアプローチの検討
- 当事者や保護者のニーズを考えたプログラム作りをしていく。
- 特別支援学校や相談支援事業所等の実行委員会への参加の依頼も視野に入れる。

【活動実績(取り組み)】

○地域スクール5日間(夏季)

ア	7/29	徳和地区市民センター	参加児童4名
イ	7/30	嬉野社会福祉センター	参加児童3名
ウ	8/2	ハートフルみくも	参加児童2名
エ	8/5	橋西地区市民センター	参加児童4名
オ	8/6	福祉会館	参加児童4名

○地域スクール5日間(冬季)

ア	12/18	飯南ふれあいセンター	参加児童1名
イ	12/19	福祉会館	参加児童2名

○保護者説明会

6/4～5 参加者2日間で5名

○ボランティア説明会

7/9～10 参加者2日間で41名

○手作りクリスマスリースキットの送付

夏季参加者と申込者合わせて8名に送付

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	2,908,000	繰入金(自主財源)	2,625,725

(7)包括的相談支援体制事業

(単位:円)

事業名	包括的相談支援体制事業	事業シートNo	2-16
担当部署	福祉のまちづくり課生活相談支援係	事業費実績	11,533,000
		(前年度比)	—

【成果】

- 重層的支援体制整備事業を実施している他市の状況を確認し、相談支援包括化推進員の啓発チラシを作成。支援機関訪問の際に持参し、周知活動に用いた。
- 支援機関からの相談に対して円滑にコーディネート業務を行うため、『Link』シート(相談受付シート)を作成。必要と思われる連携機関選定の一助となった。

- 相談支援包括化推進員の周知及び支援機関の業務や複雑かつ複合的課題を抱えているケース把握のため、市健康福祉部各課及び外部支援機関にヒアリングを行った。必要な支援機関と連携が図られていることが多いものの、繋ぎきれないケースもあることを確認した。
- 支援機関から相談のあった個別ケースについて、アセスメントを行い、包括化推進会議を開催。世帯全体の課題を共有し各支援機関の役割を明確にすることで、よりよい支援につながった。
- 松阪市のひきこもり支援体制の整理のため、生活相談支援センターや居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、民生委員に実態調査を行った(地域包括支援センターと民生委員の調査については、県の調査結果を共有)。不登校児童生徒の実態や支援方法を知る必要があると考え、NASS(不登校児童生徒支援員)へ依頼し、地域担当者とともに勉強会・意見交換会を開催した。また、生活相談支援センターとは連携方法について協議をして、複合的な課題を持つ方が来所された際には同席し、課題解決に向けて一緒に支援方法を検討した。
- 松阪市健康福祉総務課と定例会を行い、相談支援包括化推進員の役割の確認や今後の方針について話し合いを重ねた。

【課題】

- 生活相談支援センターと制度の狭間の方や生きづらさを感じている方の支援方法を協議し、必要な機関と連携を図る。
- 支援機関からの相談に対して、必要に応じて包括化推進会議を開催する。
- 上半期に実施したひきこもりの実態調査結果を支援機関などと共有を図るとともに、ひきこもりに関する勉強会を実施する。
- 地域福祉を中核的に進める職員に向けて、重層的支援体制整備事業に関する勉強会を実施する。

【令和4年度への改善】

※多機関協働事業、ひきこもり支援推進事業に移行

【活動実績(取り組み)】

- 多機関協働事業
 - ア 包括化推進会議 プラン検討5回(新規3回、評価2回) 勉強会3回
(12/16生活相談支援センターの取組～ひきこもり支援について、1/25「総合相談センター マーベル」と「相談支援事業所 こだま」の事業について～支援の取組事例～、3/11「松阪市の認知症初期集中支援チームについて」)
- 相談件数 32件
 - ア プラン作成件数 2件
 - イ 健康福祉総務課との定例会及び打ち合わせ 9回
 - ウ 支援調整会議及びケース会議出席 10回
- 啓発、周知、連携
 - ア 市役所内ヒヤリング 22カ所
 - イ 相談支援機関ヒヤリング 9カ所
 - ウ ケアマネ協会研修会にて周知 6/29
 - エ 包括管理者会議に参加 9/17
 - オ NASSに依頼した勉強会、意見交換会 7/26
 - カ 重層的支援体制整備庁内連携会議出席 6/28

キ ひきこもりの実態調査実施 9/22～10/15

ク 他市町の状況確認 亀山、鈴鹿、伊勢、鳥羽、伊賀、名張

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額
受託金(松阪市)	11,533,000

(8) ボランティアセンター事業

(単位:円)

事業名	ボランティアセンター事業	事業シートNo 2-17
担当部署	福祉のまちづくり課ボランティアセンター係	事業費実績 5,443,841 (前年度比) 96%

【成果】

- 直接の活動ができないなかで、zoomを活用したボランティア支援に力を入れた。
 - ア 松ボ連本部総会の開催時に奈良県葛城市社協とzoomを使い「コロナ禍でのつながりについて研修会」を行った。
 - イ 松ボ連松阪支部zoomの使い方研修会を行った。
 - ウ 松ボ連嬉野支部にて福祉事業所とのzoom交流会を行った。
 - エ 市民活動センターと協働で市民団体との「災害時に私たちにできること」をzoomにて実施。
- ユニバーサルデザインアドバイザー養成講座を三重県の要綱に基づき4日間にわたり8つの講座を実施。10名が新規受講し8名が修了、令和元年度に受講し、修了できなかった5名が補講を受け、合計13名が三重県ユニバーサルデザインアドバイザーの認定を受ける。
- ボランティア育成としてニーズのあった嬉野地区にて「絵手紙ボランティア講座」を行い、10名受講9名が修了した。3月に修了した受講生と話し合い令和4年度、新団体の設立の運びとなる。
- 災害ボランティアセンターサポートスタッフ養成講座(第10期生)を新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置のため、ニーズの強かった飯南・飯高地域に限定して飯南支所にて実施した。15名が受講し6名が修了する。これまでの修了生143名
- 福祉教育、ボランティア活動に関わる機会の提供
 - ア サマーボランティアスクールを開催(3日間)
 - イ ウィンターボランティアスクールを開催(2日間)
 - ウ 福祉教育として小・中・高校の授業に参加(小8校、中2校、高1校、その他1校)
- 活動休止団体へのサポート
活動場所の協議を行い再開に至る。
- 地域課題に対しする支援の仕組みづくりとして、猫一時預かりボランティア養成を企画し、令和4年度三重県ステップアップ事業に申請した。

【課題】

- 新型コロナウイルスの影響で多くのボランティア活動が自粛せざるを得なくなった。活動が休止したことによるサポートなど、今の状況下で取り組める活動を推進していく。
- 高齢化によりボランティア活動の継続が難しい団体があり、ボランティアセンターと各支所地域担当が連携しながら、グループの想いに寄り添っていく。また、松ボ連会長、副会長との話し合いで出たヒントを参考にボランティアの強化が必要である。

○地域福祉(活動)計画「人づくり」について

「人づくり」として課題にアプローチするボランティア育成や多様性の理解、福祉の心を育む福祉教育事業と連携が必要。

○災害VC運営体制整備に向けて、社協内BCPとの調整・社協内職員への学びや訓練の場を設けていく。また松阪多気ブロック災害時広域連携協議会にて広域連携体制整備に取り組む。

【令和4年度への改善】

○ボランティア活動の強化するため、先進的な取り組みをしている団体等から話しを聞く場を作る。

○新型コロナウイルス感染症の状況を見定め、できる活動や代替できる活動への変換を検討していく。

○災害時における体制づくりの推進を行っていく。

【活動実績(取り組み)】

○登録ボランティア数

	松阪	嬉野	三雲	飯南	飯高	計
グループ (人数)	41グループ (618名)	12グループ (149名)	9グループ (110名)	4グループ (113名)	9グループ (136名)	75グループ (1,126名)
個人	6名	4名	0名	0名	5名	15名
計	624名	153名	110名	113名	141名	1,141名

○松阪市ボランティア連絡協議会との協働事業

会議(総会・役員会・打合せなど)：29回 行事(視察・研修・交流会など)：15回 合計：44回

○ボランティア派遣実績

依頼件数：888回 派遣人数：5,173人

○ボランティア団体助成金 18団体 助成総額 1,114,600円

○主な行事・講座実績

ア 傾聴ボランティアフォローアップ研修(6回開催、50名参加)

イ ユニバーサルデザインアドバイザー養成講座(4日間、8講座)13名が三重県より認定を受ける。

ウ 嬉野絵手紙ボランティア養成研修(全6回、10名受講)9名修了し、3/17団体立ち上げについて話し合いを持つ。令和4年4/19団体発足予定。

エ 三重県立こどもの城にてボランティアフェスタを実施(10/16～17)

オ サマーボランティアスクール(3日間、延べ24名参加)8月半ばより緊急事態宣言の為に中止

カ ウィンターボランティアスクール(2日間、延べ21名参加)

キ 災害ボランティアセンター・サポートスタッフ養成講座

飯南・飯高地域限定し開催(10期生、5回開催、15名受講6名修了)

○災害ボランティアセンター運営推進事業

ア 松阪市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの見直しに向け、打ち合わせを行う。

イ 松阪市受援計画策定に当たり、ボランティアの受け入れについて健康福祉総務課と共に参画

ウ 松阪多気ブロック災害時広域連携協議会を行い、松阪・多気ブロックの強化に向け2/24研修会を計画し実施した。

○災害ボランティア活動 コロナ禍のため県外派遣なし

○被災者支援事業

松阪市社会福祉大会・福祉フェスティバルがオンラインとなったため、本会職員向けに大槌町漁港の物産販売を行い、販売差額を大槌町への寄附に充て東北復興支援を行う。

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
補助金(松阪市)	4,673,000	区分間繰入	566,441
寄附金	204,400		

(単位:円)

事業名	ふれあい体育祭事業	事業シートNo	2-18
担当部署	福祉のまちづくり課ボランティアセンター係	事業費実績 (前年度比)	3,000 0%

【成果】

- 4/16に第1回実行委員会を実施。新型コロナウイルス感染症のリスクが高く、ワクチン接種などの状況を見極めるため、6月の事業実施を見送り8/25の第2回実行委員会にて再協議となる。
- 8月第2回実行委員会について、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言を受け、松阪市、実行委員長、副実行委員長、社協で協議を行い、今年度の事業について中止の判断を行い実行委員に承認の確認を書面にて送付した意向確認書にて、今年度の事業中止について理解を得た。

【課題】

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、これまでのような密になる環境での実施は難しい。三密を避け人員や時間の制限、内容などの検討が必要である。

【令和4年度への改善】

- 新型コロナウイルス感染症拡大により、これまで通りの開催は難しいと思われる。
- オンラインでの開催ができないか検討し、令和4年度の実行委員会にて議案提案を行う。

【活動実績(取り組み)】

- 実行委員会：第1回 4/16
場所：松阪市福祉会館3階大会議室
第2回の8/25は、緊急事態宣言により中止。

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額
補助金(松阪市)	3,000 ※郵送費のみ

(9)日常生活自立支援事業

(単位:円)

事業名	日常生活自立支援事業	事業シートNo	2-19
担当部署	福祉のまちづくり課権利擁護係	事業費実績 (前年度比)	19,956,678 102%

【成果】

- 日常生活自立支援事業利用料助成規程を4月1日より施行。それに伴い、助成対象者の見直しを行った。

○生活支援員の確保・充実のため、今年度3名増員することができた。令和4年度から活動予定の生活支援員も1名確保できた。

【課題】

- 日常生活自立支援事業利用料助成規程のマニュアル等の整備に至らず。
- 新規生活支援員は年度内に3名増えたが、定年等の理由で7名の支援員が年度末で退任したため、不足が継続している。
- 待機者が多く、毎月10件前後利用相談に至るため初回訪問や契約に追い付いていない。

【令和4年度への改善】

- 日常生活自立支援事業 利用料助成の運営円滑化のため、専門員が共有できるマニュアル等作成を行う。
- 引き続き生活支援員確保のため、養成講座開催等の取り組みを行う。
- 待機者解消に向けて、契約前のアセスメント等を行う。
- 成年後見制度等の利用検討が必要な契約者に対し、出口支援を検討する。

【活動実績(取り組み)】

○令和3年度実績

区分	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	(昨年度実績)
相談援助件数	1,149件	251件	1,779件	219件	3,398件	3,223件
契約件数	22件	15件	12件	0件	49件	35件
解約件数	12件	3件	3件	0件	18件	25件

○実利用者件数(令和4年3月末現在)

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	(昨年度実績)
77件	44件	59件	11件	191件	160件

○生活支援員登録人数(令和4年3月末現在)

登録人数：30名 活動人数：24名 支援回数：延べ3,217回(昨年度実績：2,794回)

○研修会などの開催

令和3年度 日常生活自立支援事業 生活支援員等スキルアップ研修会(1回開催、11名参加)

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(県社協)	12,892,900	繰入金(法人後見)	975,328
利用料	2,181,400	繰入金(法人運営)	3,214,650
助成金(松阪社協)	692,400		

(10)地域後見センター事業

(単位：円)

事業名	成年後見センター事業	事業シートNo	2-20
担当部署	福祉のまちづくり課権利擁護係	事業費実績	11,000,000
		(前年度比)	91%

【成果】

- 感染症対策を行いながら、運営委員会の開催や、来所や訪問による相談業務を行った。
- 市民や福祉専門職・行政職に向けた研修を、オンラインと直接会場、飯南サテライト会場を併用し開催した。
- 昨年度、コロナ禍で民生委員児童委員の集合研修が中止となったが、研修用DVDを作成し

各地区にてDVD研修を実施

【課題】

- 令和5年度整備予定の中核機関について、内部での話し合いも含め松阪市との協議が十分に進めることができなかった。
- 研修会において、オンライン参加が難しい一般市民が密にならず参加できる会場環境を整える必要がある。

【令和4年度への改善】

- 成年後見センター事業の相談や利用支援の実績を積み重ねることで現状と課題をまとめ、令和5年度の中核機関の受託に向けて松阪市と協議していく。
- サテライト会場を増やすなど工夫をする。

【活動実績(取り組み)】

- 成年後見センターの円滑な運営と推進
 - ア 広報・啓発 地域後見サポート事業研修会 3/25 会場11名、オンライン45名
成年後見制度に関する研修依頼 5回 105名参加
 - イ 相談業務 200件の相談業務
 - ウ 利用支援 48回(延べ)の申立て支援
 - エ 関係機関との連携
成年後見推進に向けた課題解決会議：5回 情報交換会：3回 連絡会議：1回
- 運営委員会：偶数月開催(*8月は緊急事態宣言の為、中止)
- 中核機関に設置に向けた準備 松阪市と本会でオンライン情報交換会：1回、研修：1回

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額
受託金(松阪市)	11,000,000

事業名	法人後見事業	事業シートNo 2-21
担当部署	福祉のまちづくり課権利擁護係	事業費実績 1,075,774 (前年度比) 85%

【成果】

- 既存で受任している7件の後見人等の業務を行う。
- 新規で保佐人の受任依頼が3件あり、2件について地域後見サポート事業運営委員会へ諮り受任した。これまでは同法人が行う日常生活自立支援事業からの利用が多かったが、外部からの受任依頼が増えている。

【課題】

- 担当職員の他業務との兼務により、受任件数の増加に対応できるか心配が出ている。今後も外部からの受任依頼増が見込まれる中で、件数増加や同性が対応する必要があるケース等、地域における受け皿としての機能を安定して果たすため、体制を整えていく必要がある。

【令和4年度への改善】

- 法人として後見実務の経験を重ね、本人がメリットを感じられる支援ができるようにしていく。
- 法人後見での後見実務の経験を、親族後見人への支援等へ繋げていく。

【活動実績(取り組み)】

- 法人後見(後見4件、保佐5件)受任 * 令和3年3月末時点では(後見4件、保佐3件)
- 内訳：入院・入所3件、在宅6件 * 令和3年3月末時点では(入院・入所2件、在宅5件)
- 裁判所への定期報告：6月(1件)10月(1件)11月(3件)12月(1件)3月(1件)

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
自己負担金(後見等事務費)	76,712	利用料(後見等報酬)	715,000
前期末支払資金残高	284,062		

(11)生活困窮者自立支援事業

(単位：円)

事業名	生活困窮者自立相談支援事業	事業シートNo 2-22
担当部署	福祉のまちづくり課生活相談支援係	事業費実績 20,994,859 (前年度比) 99%

【成果】

- 新型コロナウイルス感染症の影響で複合的な課題を抱える方の相談が多い中、相談者と共に課題解決に取り組むことができた。
- 受給要件が緩和され増加した住居確保給付金の受付を行いながら、令和3年7月に始まった新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金を松阪市より受託し事業を実施した。
- 共同募金運動の企業回りに同行し、無料職業紹介についての説明と協力を呼びかけを行い、新たに2事業所の求人票登録ができた。
- 令和3年度より新たに配置された相談支援包括化推進員と連携をとり、多機関多職種と顔の見える関係を構築した上で連携することができた。

【課題】

- 住居確保給付金、新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金の対応が多く、相談者一人一人へのきめ細かな伴走型支援ができていない。
- 支援プランの作成件数が少なく、家計改善支援事業、就労準備支援事業、生活保護受給者等就労自立促進事業等の利用に繋がっていない。また、ひきこもり等の支援につなげていない方を相談につなげる為のアウトリーチができていない。

【令和4年度への改善】

- 令和4年度からの生活福祉資金の特例貸付の償還開始(予定)に合わせ、支援員増となるため、アウトリーチを含めきめ細かい伴走型支援の強化を行う。償還をきっかけに改めてつながる相談者に、生活福祉資金担当者、家計改善支援担当者と協働して相談支援にあたっていく。
- 新型コロナウイルス感染症関連の緊急的な制度で支えきれなくなった相談者に、生活保護受給者等就労自立促進事業の利用を推進し、ハローワークと連携して自立支援する。また、必要に応じて適切に生活保護制度に繋ぐ支援を行う。
- 令和4年度より松阪市で重層的支援体制整備事業が始まるため、ひきこもり支援推進事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援及び参加支援事業、多機関協働事業等と協働し相談支援を行う体制を整える。

【活動実績(取り組み)】

- 新規相談受付件数：697件(前年度実績：1,132件)

- 継続相談件数：5,887件(前年度実績：6,236件)
- プラン作成数：39件(前年度実績：37件)
- 就労支援
 - 就職決定者：82名(前年度実績：86件)
 - 面接のためのスーツ貸し出し：7件(前年度実績：4件)
 - 履歴書証明写真の撮影：6件(前年度実績：3件)
- 住居確保給付金
 - 延べ相談件数：2,025件(前年度実績：1,970件)
 - 申請件数：65件(前年度実績：205件)
 - 支給決定件数：57件(前年度実績：201件)
- 新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金(令和3年7月～)
 - 延べ相談件数：738件 申請件数：94件 支給決定件数：93件

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額	項目	金額
受託金(松阪市)	20,273,000	繰入金(法人運営)	721,859

(単位：円)

事業名	生活困窮者家計改善支援事業	事業シートNo	2-23
担当部署	福祉のまちづくり課生活相談支援係	事業費実績	5,143,000
		(前年度比)	92%

【成果】

- 前年同様、新型コロナウイルス感染症の影響で生活困窮者が激増し、自立相談支援機関として長期的な展望を持つことはできなかったが、ひとりひとりの気持ちを受け止めるよう行ってきた。
- 支援プランには至らないが、単発の家計診断や税金の分割納付相談をはじめライフラインや医療、生活に関わる支払いの計画などの支援を実施できた。

【課題】

- 貸付の償還猶予相談を行っているが、新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金再支給の最終受給月になっても増収が見込めない相談者がいる。
- 景気回復に希望的観測を持つ自営業者が多く、家計改善に目を向けさせることができなかった。
- 新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金の対象とならず貸付を受ける相談者の中には、ある程度の収入があるが、支出とのバランスがとれていない相談者や親の年金で生活している無職の人などの支援のため、多職種や地域の資源との連携を深める必要がある。

【令和4年度への改善】

- 自身の家計をオープンにすることに抵抗がある相談者に対し、気持ちを十分汲み、一緒に考えていく意義が伝えられるよう案内方法を工夫して伝えていく。
- 家計改善の効果が期待できない相談者に対して、適切な繋ぎ先を見極め、早期につないでいくようにする。

【活動実績(取り組み)】

- 主な支援の内容
 - ア 家計管理に関する支援(家計表及び家計計画表の作成など、家計の「見える化」を実施)

イ 分納相談や支出軽減手続きの同行等支援(収納課、保険年金課、上下水道お客様センター、弁護士、司法書士など)

ウ 貸付の斡旋にまつわる支援(通常貸付)

○プラン作成・相談件数

相談(延べ)：640件 プラン作成：5件 弁護士や司法書士への連携支援：8件

【財源内訳(単位:円)】

項目	金額
受託金(松阪市)	5,143,000

(単位：円)

事業名	生活困窮者就労準備支援事業	事業シートNo 2-24
担当部署	福祉のまちづくり課生活相談支援係	事業費実績 5,854,000 (前年度比) 89%

【成果】

- 新型コロナウイルス感染症の影響で受入れ先の確保が難しい中、相談者の準備段階に合わせた就労準備支援プログラムを2件実施できた。
- 地域のイベントやボランティア活動がなかったが、ふらっとカフェへのお誘いに加え、地域の農家の野菜収穫体験への参加といった社会とのつながりを持つことができた。
- 共同募金(法人募金)の企業訪問に同行し、就労体験及びボランティア体験協力事業所への新規登録事業所を開拓することができた。
- 面接の練習、履歴書の添削、就労の広場で就労に向けての準備を整えながら採用面接まで進めることができた。
- 主治医より就労困難との診断がある方を就労継続支援B型事業所へつなぐことができた。

【課題】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、屋内でのボランティア体験・就労体験協力事業所の協力が得にくい。利用者の体調への配慮や体験の種類を広げるための事業所開拓が必要である。
- 就労体験を終え、そのまま就労支援へと移行し無事一般就労につながるケースは多くはない。一般就労以外の中間的就労(就労継続支援A型またはB型事業所)の選択肢が限られ、多様な就労形態の提案ができていない。松阪市で登録する認定就労訓練事業所は、介護系か清掃系の2分野しかなく、新たな業種・職種の開拓の必要がある。

【令和4年度への改善】

- 利用者が地域で利用者が生活していくことを支えるため、情報共有や意見交換を通じて地域担当、地域の方との連携を深めていく。
- ひきこもりの方など面談ができない方に向けて、電話だけでなく手紙やメール、zoomなどを活用してアウトリーチできるように進めていく。
- 就労準備支援事業利用者獲得を目指し、必要性を見極め、事業の周知を図る。

【活動実績(取り組み)】

○主な支援の事例

- ア 就労に向けての準備として、病院受診の同行4回(6~9月)、精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療受給者証の取得(8月)
- イ 人との関わりへの苦手意識を克服するためにふらっとカフェを紹介し利用した。

4回(10月～3月)

ウ 就労継続支援B型事業所に1名利用決定(11月)

エ 野菜収穫体験1名実施(1月)

オ サポステへのつなぎ2名実施

カ 就労体験受け入れ事業所との三者打ち合わせ(3月)

キ 履歴書添削、面接練習(1月)

ク ひきこもり相談者への自宅訪問(2回)

ケ こころの健康センター主催のひきこもり家族教室へ参加(6月、12月)

○利用・相談件数など

プラン作成件数：2件 相談件数(延べ)：45件

協力事業所：11事業所(うち1事業所は令和3年度新規登録)

【 財源内訳(単位:円) 】

項目	金額
受託金(松阪市)	5,854,000

第4章 在宅福祉サービス部門

1 概説

令和3年度は、事業所にとって前年度以上に新型コロナウイルス感染症の影響を受けた年でした。

三重県の社会的検査(PCR検査)による感染者の早期発見や感染症対策を実施しながら事業継続を行いました。新型コロナウイルス感染症の変異株による感染拡大により、事業所職員や利用者の感染が判明し、事業を数日間休止する事態も複数生じ、利用者・家族にご心配、ご不便をおかけしました。松阪保健所の指導の元、限られた職員でシフト調整を行い、早期に事業が再開できるように努めましたが、事業再開後もしばらくの間サービスの利用自粛が続き、事業収益に影響が出ました。

令和3年度末に指定管理期限が終了するグループホームいいたかの施設・事業マネジメント協議を行った結果、事業を終了することに決定しました。利用者家族や地域に対しては、長期的に安定した継続が困難なため施設譲渡の公募に応募しないこと、在宅福祉サービスについて注力していくと説明を行い理解を得ました。譲渡先決定後は、在職職員の雇用確保を図りながら円滑に事業が継続されるよう引き継ぎを行いました。

嬉野ゆうゆうの施設・事業マネジメントについても検討を行いました。法人が運営する施設及び事業全体で見直すこととなりました。

事業所の適正な運営・収益確保においては、年2回内部監査を実施し、法令に基づくマニュアルを作成し、法令順守に努めました。

事業所の収益改善においては、就労継続支援B型事業所に目標工賃達成指導員を配置し、新たな加算を取得することにより収益増となりました。

会議や職員の資質向上研修は、職員間の接触の機会を減らすためオンラインシステムを活用し、虐待防止研修や法人全体のハラスメント研修を開催しました。

人材育成及び人材確保を目的として介護職員初任者研修を毎年開講していましたが、新型コロナウイルス感染症による感染拡大により、感染リスクを避けられないと判断し、やむを得ず中止となりました。令和4年度は、オンラインシステムの活用も視野に入れながら介護職員初任者研修の開講を予定しており、職員の資質向上や資格取得に努めます。

2 事業シート

(1)在宅福祉サービス事業

(単位:円)

事業名	在宅福祉サービス事業	事業シートNo 3-1	
担当部署	在宅福祉サービス課	事業費実績	1,044,915
		繰入金(自主財源) (前年度比)	98%
<p>【 成果 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染症研修の実施と日々の感染症対策 ○新型コロナウイルス感染後の対応方法等の振り返り及び情報共有 ○グループホームいたかの施設・事業マネジメントによる事業終了の決定。地域への説明と施設運営の引継ぎ ○法人全体の施設・事業マネジメント協議の継続 ○嬉野ゆうゆうの施設・事業マネジメント協議の結果、法人全体での協議継続 ○訪問介護事業所の移動時間手当と休業手当の検討により、令和4年度からの導入が決定したため、登録ヘルパーへ説明会を開催 ○就労継続支援B型事業所の目標工賃達成指導員配置による加算取得 ○資格取得の試験対策講座(介護支援専門員・介護福祉士) ○令和4年度の加算取得に向けた人員配置の提言 ○事故報告書の様式変更。車輛事故の発生要因の洗い出しを行い、総務課と事故防止対策の協議 ○ICTを活用した居宅介護支援事業所のサービス提供票自動仕分けシステムの検討した結果、令和4年度からの導入が決定 ○年2回の内部監査の実施 <p>【 課題 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルスを含む感染症対策 ○事業所職員の確保 ○介護保険事業所の介護職員の資格取得 ○飯南高齢者生活福祉センターの令和4年度の公募に向けた松阪市との協議 ○嬉野ゆうゆうの施設・事業マネジメントと松阪市との協議 ○指定管理施設の松阪市のタイムスケジュールの把握 <p>【 令和4年度への改善 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飯南高齢者生活福祉センターの公募条件について本会からの条件を提案 ○松阪市へ指定管理施設の修繕要望と修繕計画の確認 ○指定管理施設の施設・事業マネジメントによる法人の方向性を決定(令和4年11月まで) ○要介護認定調査員確保のため、委託料の見直しと協議 ○虐待防止委員会・感染症対策委員会の設置と運営 ○ドライブレコーダー導入による事故の検証 			

(2)高齢者福祉サービス

事業種別	訪問介護事業(松阪・飯高)	事業シートNo 3-2
事業所名	訪問介護事業所	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康管理と感染症対策の実施 ○空き情報を定期的に居宅介護支援事業所へ配布した結果、新規利用につながった。 ○利用者の緊急連絡先の更新を行い、緊急時対応について職員間で情報共有を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登録ヘルパーが42人から35人に減少したため、募集をしたが応募がなかった。(松阪) ○事業収支差額が赤字である事業体制 ○新型コロナウイルスの感染などにより、シフト調整やサービス提供に影響があった。 <p>【令和4年度への改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○居宅介護支援事業所への営業や空き情報を提供することにより利用者増につなげる。 ○契約職員・登録ヘルパーの募集について、募集媒体の拡大を行う。 		

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	松阪支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	28,685,950	21,681,028	50,366,978
事業活動支出	31,848,193	28,329,267	60,177,460
差引	△ 3,162,243	△ 6,648,239	△ 9,810,482
前年度比(収入)	81%	82%	82%
前年度比(支出)	77%	97%	85%

事業種別	通所介護事業(嬉野・三雲・飯南・飯高)	事業シートNo 3-3
事業所名	通所介護事業所	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康管理と感染症対策の実施 ○通所介護のマニュアル作成により書類作成ルールの一統 ○事例検討により介護スキル向上につながった。 ○7～8時間のサービス提供時間の変更について検討とシミュレーションの実施(飯南) ○地域ニーズに対応するために、利用定員を35名から39名に変更した。(飯高) ○利用者ニーズの把握のため、アンケート調査を実施(飯南) ○同じ医療処置ができるように、写真付きマニュアルを看護師で作成し活用した。 ○理学療法士と看護師による機能訓練により、機能訓練希望の利用者が27名増となった。 (飯南) ○加算算定していないが、看護師による機能訓練を実施し利用者の機能維持に努めた。(三雲) ○送迎車や食事などの場面で、利用者が密にならないように配慮し、感染症対策を実施 ○感染防止を踏まえた、介護技術の勉強会を開催により技術向上に努めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員・利用者が新型コロナウイルスに感染。事業所の営業自粛と職員の自宅待機による他の職員への負担増となった。 		

○新型コロナウイルス感染により、利用者の利用自粛となり収益減となった。

○施設の老朽化による修繕(嬉野)

【令和4年度への改善】

○職員の介護スキルの向上と管理者候補の人材の育成

○無資格の介護職員の資格取得のための指導や支援を実施し、職員のスキルアップを図る。

○コロナ禍によりボランティアの受入れが困難であるが、職員で工夫をしてサービス内容の充実につなげる。

○事業所のパンフレットやチラシを診療所や地元商店に置いて新規利用者獲得のためPRを行う。

○生活相談員の育成

○機能訓練指導員の配置見直し。

○デイサービスの収益改善の提案と実施

○施設の建替え又は大規模修繕を行うのか事業マネジメント協議の実施

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	嬉野支所	三雲支所	飯南支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	70,826,700	43,904,200	69,234,920	75,824,065	259,789,885
事業活動支出	68,390,590	50,600,548	65,714,326	53,983,727	238,689,191
差引	2,436,110	△ 6,696,348	3,520,594	21,840,338	21,100,694
前年度比(収入)	99%	70%	97%	91%	90%
前年度比(支出)	113%	91%	101%	104%	102%

事業種別	総合事業(松阪)	事業シートNo 3-4
事業所名	福っきー体操くらぶ	

【成果】

○健康管理と感染症対策の実施

○利用者同士が交流できるプログラムの導入により、楽しみながら運動に取り組むことができた。

○地域福祉係と連携し、地域への出前講座を開催したことで、新規利用につながった。

○事業所で提供しているプログラムを利用者の日常生活でも活用することで介護予防に貢献できた。

【課題】

○理学療法士を望むニーズはあるが、採算性を考慮すると専門職の配置は困難

○新型コロナウイルス感染症の流行により、利用者の自粛が多く、収益に影響した。

【令和4年度への改善】

○利用者ニーズの把握を継続し、利用者の交流や講師を招いたプログラムの実施により、利用満足度の向上につなげる。

○地域担当と連携し、地域の集いの場へPR活動を行うことにより、新規利用者の獲得につなげる。

○介護職でも実施できる効果的なプログラムの工夫

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

事業活動収入	12,493,990	前年度比(収入)	90%
事業活動支出	10,475,821	前年度比(支出)	61%
差引	2,018,169		

事業種別	認知症対応型共同生活介護事業(飯高)	事業シートNo 3-5
事業所名	グループホームいいたか	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康管理と感染症対策の実施 ○新型コロナウイルス感染症に職員が感染し、入居者・職員が濃厚接触者となったが、施設内で残った職員の協力でサービスを提供できた。 ○運営推進会議にて、外部評価を実施 ○グループホームいいたかの施設譲渡について、本会で協議を重ね、公募に応募しないことを決定した。 ○入居者家族・地域への説明会の実施 ○譲渡先が(株)Wに決定し、引継ぎを行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入所者を満床にして事業引継ぎをしたかったが、満床にできず事業終了となった。 <p>【令和4年度への改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度末で事業廃止のため改善策なし 		

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

事業活動収入	76,094,036	前年度比(収入)	102%
事業活動支出	79,951,624	前年度比(支出)	104%
差引	△ 3,857,588		

事業種別	外出支援通所サービス運営事業(嬉野・飯高)	事業シートNo 3-6
事業所名	嬉野いきいき、飯高サテライト	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康管理と感染症対策の実施 ○業務内容を見直し、事務負担の軽減 ○委託事業の内容を松阪市に確認し、嬉野・飯高の業務内容のすり合わせを行った。 ○民生委員定例会や地域へのPR活動により新規利用につながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の介護保険への移行により利用者数が減少 <p>【令和4年度への改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新規利用者獲得のため、チラシや地域への商店などへの募集ポスターの掲示 ○地域包括支援センターの介護予防教室や自主グループなどの集いの場があるため、委託事業継続の必要性について検討 ○業務内容の見直しによる時間外の削減効果の検証 		

【財源内訳(単位:円)及び前年度比】

委託金	利用料	事業実績	前年度比
17,941,000	843,300	18,784,300	101%

事業種別	居宅介護支援事業(松阪・嬉野・飯高)	事業シートNo 3-7
事業所名	居宅介護支援事業所	

【成果】

- 健康管理と感染症対策の実施
- 主任ケアマネ会議による新人マニュアルの見直し
- 主任介護支援専門員の資格取得
- ICTを活かし事務負担軽減を図るため、令和4年度にサービス提供票自動仕分けシステムの導入を決定
- 他法人と合同研修会を開催し、特定事業所加算の算定要件を満たすとともに、地域連携を図った。
- オンライン研修に参加し、自己研鑽に努めた。

【課題】

- 三雲地域の利用者の減少
- 利用者の抱える問題の多様化により、介護支援専門員だけでは解決できない課題がある。
- 既存の加算や新たな加算を確実に取得できる仕組みづくり

【令和4年度への改善】

- 加算が確実に算定できるよう統一したチェックシートの作成
- サービス提供票自動仕分けシステムの活用による事務負担軽減及び経費の削減
- 福祉のまるごと相談室との連携により、多様な生活課題解決への取り組み
- 重層的支援体制を意識した事業所づくり

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	松阪支所	嬉野支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	58,676,740	66,683,370	40,555,730	165,915,840
事業活動支出	47,888,118	55,145,523	37,730,625	140,764,266
差引	10,788,622	11,537,847	2,825,105	25,151,574
前年度比(収入)	106%	102%	98%	102%
前年度比(支出)	101%	101%	103%	102%

事業種別	地域包括支援センター事業 ※介護予防支援事業含む	事業シートNo 3-8
事業所名	第二地域包括支援センター、第三地域包括支援センター	

【成果】

- 健康管理と感染症対策の実施
- 緊急事態宣言下、地域担当と協働して広報誌を作成したことで、新規相談につながった。
- コロナ禍でも研修が開催できる手法としてオンライン研修を実施し、定着した。
- 虐待防止講座を寸劇形式で実施したことで、参加者の理解につながった。
- 認知症啓発にかかる講座は夜間開催により、日中就労している方の参加が得られた。

○宅老所の閉鎖に伴い、生活実態アンケートを実施し、宅老所に代わる集いの場の開設につながった。

【課題】

○新たな集いの場は開設できたが、今後は住民主体への集いの場への移行を検討

○一部の地域では、地域ケア会議により課題の洗い出しができたが、全地域には介入できていない。

○緊急事態宣言下では、介護予防教室の実施ができないため、広報誌以外の啓発や取り組みの検討

○コロナ禍のため認知症推進事業の声掛け訓練が実施できていない

○新型コロナウイルス感染症感染拡大により、介護予防教室の利用自粛による参加者の減少

【令和4年度への改善】

○公民館、住民自治協議会の集いの場について、開催時期を調整し、事業実施へつなげる。

○関係機関と連携し、集いの場を住民主体への移行を図る。

○コロナ禍での学校への認知症サポーター養成講座開催への働きかけ

○福祉まるごと相談室との連携による重層的支援の取り組み。

○認知症地域支援推進員の連絡会において、安心見守り隊のあり方について、新規事業を踏まえた上で検討を実施

【活動実績(取り組み)】

○地域との連携

ア 総合相談の実施

イ 広報誌の作成、配布

ウ 地域ケア会議の開催

エ 各関係機関との研修会へ参加

○実態把握調査

実態把握調査の実施

○高齢者の権利擁護

権利擁護講座(消費者被害防止、成年後見制度、虐待防止)の実施

○健康づくりと介護予防の推進

ア 一般介護予防教室の実施

イ 集いの場創出支援の実施

ウ いきいきサポーター養成講座初級、中級の実施

エ いきいきサポートフォローアップ講座の実施

オ 介護予防地域活動支援の実施

カ 出前教室の実施

キ 委託ケース担当者会議への

ク 個別地域ケア会議の実施

ケ 事例検討会の実施

○認知症施策の充実

ア 高齢者安心見守り隊養成講座の実施

イ 認知症サポーター養成講座の実施

ウ 安心見守り隊フォローアップ講座の実施

○職員の健康管理と感染症予防

ア 感染症予防対策の実施

イ サテライトオフィスの実施

ウ 社会的検査によるPCR検査を週1回実施

【財源内訳(単位:円)及び前年度比】

委託金	事業収入	繰入金収入	事業実績	前年度比
76,612,900	31,300	0	76,644,200	97%

事業種別	介護保険認定調査事業(松阪・嬉野・飯高)	事業シートNo 3-9
事業所名	居宅介護支援事業所	
【成果】		
○健康管理と感染症対策の実施		
○年度末に認定調査員を対象にアンケート調査を実施し、職務に対しての意見を聞き、契約更新ができた。		
○他市を含む要介護認定調査を大きな遅延なく実施することができた。		
【課題】		
○認定調査員の退職により、認定調査員が不足している。今後も認定調査の委託を受けていくには、認定調査員の確保が必要		
○居宅介護支援事業所への認定調査の問い合わせが多く、対応に時間が取られる。		
○要介護認定の期間が最長3年間に伸びたことで、年度によっては調査件数に大きな影響を受ける。		
【令和4年度への改善】		
○認定調査員への感染症対策用品の配布		
○認定調査を行うのに必要な介護支援専門員資格更新のサポート		
○認定調査委託料を見直し、認定調査員の確保		
○適切な要介護認定調査を行うために、認定調査員の資質向上に努める(松阪市との合同研修会の開催など)		

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	松阪支所	嬉野支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	16,277,400	3,556,850	1,193,500	21,027,750
事業活動支出	14,150,186	2,754,399	812,649	17,717,234
差引	2,127,214	802,451	380,851	3,310,516
前年度比(収入)	167%	155%	155%	164%
前年度比(支出)	160%	162%	115%	157%

(3)障がい者福祉サービス

事業種別	移動支援サービス事業(松阪・飯高)	事業シートNo 3-10
事業所名	訪問介護事業所	
【成果】		
○ヘルパー会議にて情報共有し、利用者への適切な支援を行うことにより利用者の外出意欲につながった。		
【課題】		
○利用者の障がい特性に応じた支援方法の見直し		
○移動支援の時間が、2～5時間程になるため、対応可能なヘルパーの確保が困難		
【令和4年度への改善】		
○天候や体調などにより中止になる場合があるため、居宅介護に切り替えて対応していく。		
○利用の特性に応じた支援ができるヘルパーの養成と研修		

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	松阪支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	100,050	106,300	206,350
事業活動支出	72,801	52,661	125,462
差引	27,249	53,639	80,888
前年度比(収入)	157%	33%	64%
前年度比(支出)	1696%	97%	216%

事業種別	居宅介護事業(松阪・飯高) ※同行援護含む	事業シートNo 3-11
事業所名	訪問介護事業所	
【成果】		
○ヘルパーの新型コロナウイルス感染により人材不足となったが、シフト調整により対応できた。		
○担当ヘルパーの交代があったが、情報共有を行うことで、引継ぎがスムーズにできた。		
【課題】		
○実費での支援追加の要望があるが、職員不足にて対応が困難		
【令和4年度への改善】		
○訪問依頼の回答が誰でもできるように、空き情報を共有		
○職員・登録ヘルパー確保による新規利用者の受入		

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	松阪支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	18,616,660	7,564,520	26,181,180
事業活動支出	13,222,917	2,036,605	15,259,522
差引	5,393,743	5,527,915	10,921,658
前年度比(収入)	101%	116%	105%
前年度比(支出)	111%	104%	110%

事業種別	生活介護事業	事業シートNo 3-12
事業所名	生活介護事業所	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康管理と感染症対策の実施 ○虐待防止マニュアルの作成 ○虐待防止研修を受講し、職員への周知 ○新型コロナウイルス感染症対策研修の受講 ○防火管理者講習を受講し、防災訓練を実施 ○権利擁護研修会を受講し支援について学んだ。 ○利用者アンケートを実施し、利用者・家族のニーズについて把握 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者へ統一した介護方法で介護できていない <p>【令和4年度への改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員のスキルアップ(虐待防止の取り組み) ○特別支援学校への訪問と周知により、新規利用者の増に努める ○情報共有を行い、統一した介護の提供 ○防火管理者の指導の元、防火管理計画の作成と訓練の実施 		

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

事業活動収入	48,566,870	前年度比(収入)	99%
事業活動支出	45,142,582	前年度比(支出)	106%
差引	3,424,288		

事業種別	就労継続支援B型事業(松阪・嬉野・飯高)	事業シートNo 3-13
事業所名	えみわーく、嬉野ゆうゆう、飯高じゃんぷ	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康管理と感染症対策の実施 ○嬉野ゆうゆう施設・事業マネジメント ○中学校との連携による、Tシャツ販売 ○目標工賃達成指導員配置加算取得による収益増 ○あゆみ特別支援学校事業所フェアに参加し、相談対応と活動の紹介 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○嬉野ゆうゆう施設、事業の方向性の決定 ○「かがやくいのちTシャツ」をはじめ、アート活動と販売の継続 ○目標工賃達成に向けて取り組みをしていたが、わずかに達成に届かず、上位区分の取得に至らなかった。 ○今年度卒業生への事業所紹介と、特別支援学校進路担当者との連携 ○新型コロナウイルス感染症の対策、事業継続のためのマニュアル整備 ○緊急事態宣言などの発出でえみりあの営業が中止となり収益が減少 ○請負作業の増加により、休憩室の不足 ○請負の受注拡大により納品回数が増え、日中の見守り体制が手薄になった。 		

○事業所内で胃腸炎などの感染症が流行した際の連絡体制に不備が生じたため、対応策の見直し

【令和4年度への改善】

- 食材料や弁当容器代の高騰により、食事代の価格改定や営業時間の見直しについて検討（松阪支所）
- 利用者の適正に応じた請負を開拓し、安定した工賃の確保
- 目標工賃達成指導員を中心に年間計画の進捗管理を行い、上位区分を取得する。
- 新型コロナウイルス感染症以外の感染症について、正しい感染症対策を身につける。
- 特別支援学校との連携を図り、実習の受け入れなどにより新規利用者の確保につなげる。
- Tシャツのデザインや創作活動による販売活動の継続

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	松阪支所	嬉野支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	26,516,719	31,728,202	37,727,408	95,972,329
事業活動支出	25,700,303	30,509,550	28,076,932	84,286,785
差引	816,416	1,218,652	9,650,476	11,685,544
前年度比(収入)	187%	101%	108%	119%
前年度比(支出)	127%	109%	108%	114%

事業種別	多機能型事業(三雲・飯南)	事業シートNo 3-14
事業所名	サン・ウイングスみくも、夢風船	

【成果】

- 健康管理と感染症対策の実施
- 販売事業において、行事ごとにカタログ作成を行い、コロナ禍で対面販売が制限されるなか、社協内での宣伝・売上につなげた。
- 対面販売の制限のある中、地域の防災フェスタに参加し、少人数での販売を実施。商品の紹介を行うことで、利用者の生産意欲向上につながった。
- 生活介護のレクリエーションを日中のルーティン化したことで、利用者の不安を未然に防ぎ、落ち着いて過ごすことができた。
- さをり織り展示会を開催し、さをり織り商品の販売を行った。売り上げが多かったため目標工賃達成でき、令和4年度の区分が上がった。
- さをり織り展示会がマスコミに取り上げられ、利用者のモチベーションが上り、地域へのPRにもつながった。
- 土曜・祝の稼働により、稼働率の上昇につながった。

【課題】

- 新型コロナウイルス感染症により、事業中止や利用者の利用自粛があり収益が減少した。
- 請負作業のミスにより検品が厳格化され、生産力が減少した。

【令和4年度への改善】

- 請負作業のミスを減らすため、確認や在庫管理を行う。
- 日中一時の土日祝日の担当を常勤職員を配置することで、生活介護の安定を図る。
- 特別支援学校や相談支援事業所との連携により、生活介護の新規利用者確保に努める。

○利用者の特性に合わせた、作業や補助具の検討

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	三雲支所	飯南支所	収支計
事業活動収入	44,885,379	58,352,238	103,237,617
事業活動支出	40,972,527	43,794,260	84,766,787
差引	3,912,852	14,557,978	18,470,830
前年度比(収入)	107%	93%	98%
前年度比(支出)	99%	92%	95%

事業種別	日中一時支援事業(嬉野・三雲・飯南・飯高)	事業シートNo 3-15
事業所名	嬉野ゆうゆう、サ・ウイングすみくも、夢風船、飯高じゃんぷ	

【成果】

- 健康管理と感染症対策の実施
- 特別支援学校の休みに合わせて、日中一時支援の利用を開始し、今後も学校の休みに合わせた定期利用につながった。
- 多機能型のイベントにより、日中一時支援のサービス利用につながった。

【課題】

- 緊急利用で人員配置が厳しい日もあった。

【令和4年度への改善】

- 緊急受入れ時の職員配置の確認(勤務表作成時にカバー体制の確認)
- 日中一時支援の営業日拡大による収益改善(三雲)
- グループホームとの連携による利用者の受入(三雲)

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	嬉野支所	三雲支所	飯南支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	51,610	547,880	7,278,090	740,229	8,617,809
事業活動支出	51,610	8,860	852,327	294,904	1,207,701
差引	0	539,020	6,425,763	445,325	7,410,108
前年度比(収入)	35%	78%	88%	59%	101%
前年度比(支出)	57%	54%	159%	71%	115%

事業種別	外部サービス利用型共同生活援助事業(三雲・飯高)	事業シートNo 3-16
事業所名	みくもホーム、はーとりあ飯高	

【成果】

- 健康管理と感染症対策の実施
- サン・ウイングすみくもが土曜・祝日に事業を行い、人件費削減(日中の世話人勤務時間分削減)につながった
- 虐待防止研修に参加し、職員・世話人の資質向上を図った。
- 食材納入業者の食材費値上げにより、食事代の値上げを検討し、令和4年度の値上げを決定した。(飯高)

【課題】

- 入居者が濃厚接触者となったため、施設内での待機となり、外部サービスの利用が中止となった。(三雲)
- 施設内での待機期間中のシフト調整が困難であった。
- 入居施設のため新型コロナウイルス感染症だけでなく他の感染症が出た場合のリスクが高い。
- 世話人の退職による人員確保
- 地域でのイベント参加時の感染症対策の徹底
- 4床しかないため満床にしても共同生活援助事業単体では黒字化ができない(三雲支所)

【令和4年度への改善】

- 世話人の業務内容の見直しと世話人の確保
- 入居者のストレス軽減のため、地域のイベントへの参加を検討。感染症対策を行い、安心して参加できる環境を提供する。
- 収入を安定させるため、入居と短期入所の比率の見直しと検討
- 日中一時支援との連携による人件費の削減(三雲支所)

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	三雲支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	8,050,180	14,337,116	22,387,296
事業活動支出	9,410,948	13,301,891	22,712,839
差引	△ 1,360,768	1,035,225	△ 325,543
前年度比(収入)	134%	92%	104%
前年度比(支出)	107%	92%	98%

事業種別	短期入所事業(三雲)	事業シートNo 3-17
事業所名	みくもホーム	

【成果】

- 新規利用者が増え、前年度と比較し稼働率が上がった。
- 家族の入院により短期入所の利用につながった。

【課題】

- 入居者が濃厚接触者になったため、短期入所の受入れを一時停止した。
- 現状の営業日数では黒字化が困難

【令和4年度への改善】

- 日中一時支援との併用により稼働率を上げる
- 収入を安定させるため、入居と短期入所の比率の見直しと検討
- 事業形態を変更し営業日を増やすことで収益の改善を図る

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

事業活動収入	3,995,900	前年度比(収入)	96%
事業活動支出	4,192,954	前年度比(支出)	85%
差引	△ 197,054		

事業種別	障がい者特定相談事業・障がい児相談事業(松阪)	事業シートNo 3-18
事業所名	福らむ	
【成果】 ○健康管理と感染症対策の実施 ○コロナ禍のため訪問の機会が減少し、電話で確認を行った。 ○相談専門員協議会等主催の研修に参加し、資質向上に努めた。 ○新規契約者は年間12人となり、職員2名で244件対応をしている。		
【課題】 ○コロナ禍により、訪問によるモニタリング加算取得ができなかった。 ○利用者数は増加しており、資料作成などの事務負担が増大 ○五大システムで利用者情報の管理ができないため、データ管理が難しい。		
【令和4年度への改善】 ○新型コロナウイルス感染症の感染状況に留意しながら訪問や関係機関と連携し、加算を取得することにより収益増につなげる。 ○業務負担改善のため、記録や情報管理を簡素化できる方法について、情報収集し、検討を行う。(システムへの改善要望)		

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

事業活動収入	12,141,180	前年度比(収入)	97%
事業活動支出	9,373,568	前年度比(支出)	101%
差引	2,767,612		

(4)その他の福祉サービス

事業種別	福祉有償運送事業(松阪・飯高)	事業シートNo 3-19
事業所名	訪問介護事業所	
【成果】 ○健康管理と感染症対策の実施 ○令和3年度に松阪市が交通施策のモデル事業として、飯高地域の交通に関する全世帯型のアンケートを実施し、今後の交通施策への課題の洗い出しを行った。		
【課題】 ○要望があるが、現在の職員数では、対応ができない。 ○地域のコミュニティバスもあるが、バス停までの移動手段が無い。 ○高齢者の免許返納により、専門病院への受診が困難である。 ○コロナ禍のため、交通施策のアンケート調査の報告会が延期となった。		
【令和4年度への改善】 ○令和3年度松阪市の交通施策のモデル事業で、飯高地域がアンケート調査の報告会が延期になっており、今後の交通計画について、地域の課題や地域の声を地域包括支援センターと共に提言していく。		

【事業活動収支(単位:円)及び前年度比】

	松阪支所	飯高支所	収支計
事業活動収入	9,600	159,700	169,300
事業活動支出	698	11,614	12,312
差引	8,902	148,086	156,988
前年度比(収入)	54%	39%	40%
前年度比(支出)	54%	0.3%	0.3%

第5章 資料

1 法人運営部門

(1) 法人の運営

① 評議員会・理事会・監事監査

項目 (出席者)	期日	議題など
第1回評議員会 (評議員 11名) (理事 2名)	4月15日	第1号議案 松阪市社会福祉協議会定款の一部変更について 第2号議案 松阪市社会福祉協議会役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正について
決算監査 (監事 2名)	5月20日	令和2年度事業報告について 令和2年度収支決算について
第1回理事会 (理事 6名) (監事 2名)	5月27日	第1号議案 「グループホームいいたか」民間譲渡に関する対応方針について
第2回理事会 (理事 6名) (監事 2名)	6月3日	第1号議案 令和2年度事業報告について 第2号議案 令和2年度収支決算について 第3号議案 令和3年度第1次補正収支予算について 第4号議案 役員選任候補者の推薦について 第5号議案 評議員選任候補者の推薦について 第6号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第7号議案 令和3年度評議員選任・解任委員会の開催について 第8号議案 令和3年度定時評議員会の開催について
定時評議員会 (評議員 13名) (理事 2名) (監事 2名)	6月14日	第1号議案 令和2年度事業報告について 第2号議案 令和2年度収支決算について 第3号議案 令和3年度第1次補正収支予算について 第4号議案 理事の選任について 第5号議案 理事の選任について 第6号議案 理事の選任について 第7号議案 理事の選任について 第8号議案 理事の選任について 第9号議案 理事の選任について 第10号議案 理事の選任について 第11号議案 理事の選任について 第12号議案 理事の選任について 第13号議案 監事の選任について 第14号議案 監事の選任について 報告事項 「グループホームいいたか」民間譲渡に関する対応方針について
第3回理事会 (理事 9名) (監事 2名)	6月23日	第1号議案 会長、副会長及び常務理事の選定について 報告事項 継続協議事項について

項目 (出席者)	期日	議題など
第4回理事会 (理事 9名) (監事 2名)	9月27日	第1号議案 第三者委員の選任について ※書面決議
第5回理事会 (理事 7名) (監事 2名)	11月30日	第1号議案 令和3年度第2次収支補正予算について 第2号議案 令和3年度中間事業報告について 第3号議案 令和3年度中間収支決算について 第4号議案 定款施行細則の一部改正について 第5号議案 役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正について 第6号議案 委員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正について 第7号議案 在宅勤務規程の新設について 第8号議案 職員給与規程の一部改正について 第9号議案 職員就業規則の一部改正について 第10号議案 契約職員就業規則の一部改正について 第11号議案 非常勤職員就業規則の一部改正について 第12号議案 登録ヘルパーの雇用等に関する就業規則の一部改正について 第13号議案 育児休業及び育児短時間勤務に関する規程の一部改正について 第14号議案 介護休業及び介護短時間勤務に関する規程の一部改正について 第15号議案 定年後再雇用制度規程の一部改正について 第16号議案 車輛使用規程の一部改正について 第17号議案 私有車の業務使用に関する規程の一部改正について 第18号議案 第3回評議員会の開催について 報告事項① 会長及び常務理事の職務執行状況報告について 報告事項② 「グループホームいいたか」民間譲渡に関する進捗状況報告について
第3回評議員会 (評議員 12名) (理事 2名) (監事 1名)	12月9日	第1号議案 令和3年度第2次収支補正予算について 第2号議案 令和3年度中間事業報告について 第3号議案 令和3年度中間収支決算について 第4号議案 役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正について 報告事項 「グループホームいいたか」民間譲渡に関する進捗状況報告について

項目 (出席者)	期日	議題など
第6回理事会 (理事 6名) (監事 1名)	2月28日	第1号議案 令和3年度第3次収支補正予算について
		第2号議案 令和4年度事業計画について
		第3号議案 令和4年度収支予算について
		第4号議案 定款の一部変更について
		第5号議案 事務局規程の一部改正について
		第6号議案 定款施行細則の一部改正について
		第7号議案 決裁規程の一部改正について
		第8号議案 経理規程の一部改正について
		第9号議案 業務管理体制整備規程の一部改正について
		第10号議案 倫理委員会規程の一部改正について
		第11号議案 職員給与規程の一部改正について
		第12号議案 職員就業規則の一部改正について
		第13号議案 契約職員就業規則の一部改正について
		第14号議案 非常勤職員就業規則の一部改正について
		第15号議案 登録ヘルパーの雇用等に関する就業規則の一部改正について
		第16号議案 松阪支所に関する規程の一部改正について
		第17号議案 認知症対応型共同生活介護（介護予防認知症対応型共同生活介護）運営規程の廃止について
		第18号議案 通所介護及び第1号通所事業（通所介護相当サービス）運営規程(三雲支所通所介護事業所)の一部改正について
		第19号議案 通所介護及び第1号通所事業（通所介護相当サービス）運営規程(飯南支所通所介護事業所)の一部改正について
		第20号議案 通所介護及び第1号通所事業（通所介護相当サービス）運営規程(飯高支所通所介護事業所)の一部改正について
		第21号議案 介護予防支援運営規程(松阪市第二地域包括支援センター)の一部改正について
		第22号議案 松阪市社会福祉協議会介護予防支援運営規程（松阪市第三地域包括支援センター）の一部改正について
		第23号議案 松阪市社会福祉協議会施設の長他の重要な職員の任について
		第24号議案 松阪市社会福祉協議会第4回評議員会の開催について
		報告事項 松阪市社会福祉協議会会長及び常務理事の職務執行状況報告について
※オンライン形式での開催		

項目 (出席者)	期日	議題など
第4回評議員会 (評議員 11名) (理事 2名)	3月10日	第1号議案 松阪市社会福祉協議会令和3年度第3次収支補正予算の承認について 第2号議案 松阪市社会福祉協議会令和4年度事業計画の承認について 第3号議案 松阪市社会福祉協議会令和4年度収支予算の承認について 第4号議案 松阪市社会福祉協議会定款の一部変更について ※オンライン形式での開催

②評議員選任・解任委員会

期日	出席者	議題
6月14日	評議員選任・解任委員 5名 理事 2名	第1号議案 評議員の選任について

(2) 福祉関係施設の運営管理

①各施設の自主事業

施設名	開催日	行事名	参加者数
ハートフルみくも 保健福祉センター	4月1日～3月31日	写真展	—
	中止	人形劇公演会	—
	中止	ハートフルみくもカラオケ交流会	—
ハートフルみくも スポーツ文化センター	中止	ハンドマッサージ交流会	—
	中止	卓球交流会	—
	中止	健康講座	—
	中止	エアロビクス交流会	—
	中止	腹話術鑑賞会	—
飯南ふれあいセンター	10月21日	避難訓練	85名
	12月17日	感染予防研修	14名
飯南高齢者生活福祉 センター	3月29日	避難訓練	75名
飯高高齢者生活福祉 センター	11月24日	避難訓練	40名
	3月17日	避難訓練	42名

②貸館利用状況

施設名		令和元年度	令和2年度	令和3年度
松阪支所	貸館件数(件)	37	375	380
	利用者数(名)	690	4,225	4,315
嬉野社会福祉センター	貸館件数(件)	1,136	803	1,078
	利用者数(名)	18,400	8,740	10,688
ハートフルみくも 保健福祉センター	貸館件数(件)	648	250	216
	利用者数(名)	17,771	6,113	5,127
ハートフルみくも スポーツ文化センター	貸館件数(件)	4,127	2,744	3,020
	利用者数(名)	41,268	27,291	28,038
飯南ふれあいセンター	貸館件数(件)	348	489	367
	利用者数(名)	9,271	9,000	8,256
飯南高齢者生活福祉 センター	貸館件数(件)	47	182	281
	利用者数(名)	254	589	1,077
飯高高齢者生活福祉 センター	貸館件数(件)	76	148	171
	利用者数(名)	851	1,046	833

③施設入居の状況

施設名		令和元年度	令和2年度	令和3年度
飯南高齢者生活福祉 センター	実入居者数(名)	44	37	23
	延べ入居日数(日)	1,331	1,117	700
飯高高齢者生活福祉 センター	実入居者数(名)	80	82	58
	延べ入居日数(日)	2,405	2,424	1,725

2 福祉のまちづくり部門

ボランティア派遣実績

活動分野	種別	松阪		嬉野		三雲		飯南		飯高		計	
		依頼	派遣	依頼	派遣	依頼	派遣	依頼	派遣	依頼	派遣	依頼	派遣
		件	名	件	名	件	名	件	名	件	名	件	名
障害者関係	団体支援	1	1									1	1
	施設支援			24	22	5	15					29	37
	個別支援	30	30									30	30
	行事支援											0	0
高齢者関係	食事サービス			15	75			12	148	11	128	38	351
	安否確認	12	84	13	78	4	15	12	143			41	320
	施設支援	3	15									3	15
	行事支援			2	10			1	16			3	26
	居場所づくり	7	14					188	1,934			195	1,948
	その他	1	10	193	194			12	71			206	275
児童関係	団体支援											0	0
	居場所づくり											0	0
	託児											0	0
	行事支援	2	10									2	10
	見守り活動					172	1,136					172	1,136
学校	福祉体験支援	8	35									8	35
	その他									2	18	2	18
その他施設	環境整備											0	0
	その他	16	80					18	189			34	269

活動分野	種別	松阪		嬉野		三雲		飯南		飯高		計	
		依頼	派遣	依頼	派遣	依頼	派遣	依頼	派遣	依頼	派遣	依頼	派遣
		件	名	件	名	件	名	件	名	件	名	件	名
その他	使用済切手整理	21	126									21	126
	リサイクル活動	6	18			17	71					23	89
	地域支援	2	4			55	150					57	154
	啓発活動	4	10									4	10
	環境整備	17	243			2	80					19	323
計		130	680	247	379	255	1,467	243	2,501	13	146	888	5,173

<事業概要>

飯南地区・飯高地区は共に松阪市内の中山間地域として、市街地に比べ昔ながらの付き合いや気の掛け合いも残っている。しかし住民の高齢化、人口減による影響も伴い、これまで取り組んでこられた地域活動、助け合いや支え合いのチカラが弱まってきている。また高齢者の課題のみでなく8050問題と言われる世帯の課題も目立つようになってきた。その中で福祉活動や高齢者見守りなどの中心を担う民生委員の負担増、担い手不足は顕著である。

地域の人口減少から、限られた人材がいかに協力し合えるか、既存の高齢者安心見守り隊や認知症サポーター・老人クラブ役員・自治会長・元民生委員などが連携できるしくみの構築を図る。

『地域の見守り』をひとつのキーワードとし、課題解決に向けて地域包括支援センターや地域診療所等との連携強化を図り、幅広く住民に働きかけを継続していくことで、普段の生活の中でお互いが気遣いあえる関係性、居心地のいい地域づくりを築いていく。

<事業実施による成果>

《飯南地区》

「福祉委員」の推進を目的に住民への周知や理解、民生委員担当エリア内で人材を発掘するために、ふれあいサロンの2カ所を「モデル地区」として選定。「ミニ懇談会」としてサロン活動の現状や活動を聞き取るなかで、地域における既存の取組みを知ることができた。「互いに気を掛け合い、見守る」ことが大切であり、自分たちの地域に必要なものであると再認識いただいた。それにより、新たなことに取り組むのではなく、普段からの活動を整理し、可視化することで「福祉委員」の推進をすることを目標と設定した。

推進する中で、地域の取組みに差があること、また当初目指した「福祉委員」というイメージ像で「誰かが担う」という役割を前面に出すのではなく、「みんな」が「お互いさまの事」として参加でき、気軽に手をあげることができる仕組みにシフトした。また「取組みへの理解を住民全体へ少しずつ丁寧に行いたい」というワーカーの想いのもと、地域包括支援センター生活支援コーディネーターと連携し、地区福祉会・民生委員児童委員協議会・住民自治協議会・高齢者ふれあいサロン・老人クラブ・中学校コミュニティースクールなど多くの方らへ理解を深めていただく周知に力を入れた。その結果「高齢者の見守り」から「子どもも含めた地域住民全体の見守り」として対象を拡げていくことができた。名称を「茶ちゃ丸見守り隊」として、地域に以前よりあるキャラクター“茶ちゃ丸”をネーミングに活用し、地域おこし協力隊の協力を得て「高齢者の見守り」という限定した取組みから、地域住民全体の「声かけ」「あいさつ」「気遣い」「見守り」「助け合い」の大切さを啓発し定着させていく取組みへと向かうことができた。

《飯高地区》

昨年度の動きを受けて、飯高森地区診療所Drと共に地域住民に対しての「見守り」「支え合い」意識の醸成へのアプローチ手法を検討する。アドバイザーである皇学館大学大井先生と飯高森地区診療所Dr合同打合わせを予定するが、コロナ緊急事態宣言もあり実施できなかった。また地域へのアプローチにおいても地域状況(住民自治協議会への組織改編、風力発電建設反対運動など)を鑑みて具体的な取組みが実施できなかった。しかし飯高地区全

域に対して「公共交通・買い物」をテーマとして4住民自治協議会へヒアリング調査を地域包括支援センターおよび行政移住促進担当と実施し現状の課題について協議した。また買い物支援先進地事例として長野県山ノ内町社協「福商連携～わくわく商店街」の実践を共に学び、地域アプローチの切り口を共有した。

地域福祉活動ステップアップ支援事業ワーカー主な行動記録

月日 (時期)	「主なできごと」と 「ワーカー」の取組み・動き	ワーカーの意図・ねらい (ワーカーの動きの根拠)	ワーカーの気づき
5月10日	活動のPRとして、地区福祉会広報誌「ささえ愛」へ掲載	全戸配布の広報誌の活用	飯南地区における「地区福祉会」の存在感
5月21日	飯南民児協定例会出席 福祉委員の取組みについて相談と協力をお願い	民生委員への理解と協力を得る	民生委員によって見守り隊へのニーズは変わる。
6月25日	飯南地区の住民自治協議会会長への説明	住民自治協議会への理解と協力を得る	
7月12日	生辺サロンミニ懇談会	取り組みのきっかけ(民生委員サポーターを希望する前民生委員とその仲間)となった地区へのアプローチ	地域へ働きかけを行う中で「皆が普段から取り組んでいることであり、役割として与えられることで自分たちが特別な存在になり周囲の目が気になる」という声もあれば、「自分たちは何をしたら良いのか?」という明確な役割を求める声もあり地域にて捉え方が違っていた。
8月13日	茶ちゃ丸作者中西氏(飯南中CS)と打合せ 粥見小学校CS保護者会	コミュニティースクールとの連携	
8月31日	粥見住協会長・民児協会長面談	民児協会長より住協会長(飯南地区代表)へ一緒に説明をすることにより、民児協との連携をアピール	飯南中学CS役員からの西部教育事務所のあいさつ運動へのつながり
10月15日	仲組サロンミニ懇談会	モデル地区へのアプローチ	
11月25日	地域おこし協力隊と面談	取組みに対する専門的視点を伺い参考とする	見守り活動新チラシ作成の相談
1月17日	飯南中CSあいさつ運動へ参加し“茶ちゃ丸見守り隊”周知	CS活動とのコラボ推進	高齢者から子どもまで、地域全体で見守る・気にかける状態をつくる

3 在宅福祉サービス部門

1 高齢者福祉サービス

事業	項目	松阪	飯高
訪問介護事業	延べ利用者数(人)	993	634
	延べ利用回数(回)	7,972	5,940

事業	項目	嬉野	三雲	飯南	飯高
通所介護事業	延べ利用者数(人)	854	446	899	803
	延べ利用回数(回)	8,784	5,126	8,303	8,902

事業	項目	松阪
総合事業 福っきー体操くらぶ	延べ利用者数(人)	1,090
	延べ利用回数(回)	3,942

事業	項目	飯高
認知症対応型 共同生活介護事業	延べ利用者数(人)	207
	延べ利用回数(回)	6,229

事業	項目	嬉野	飯高
外出支援通所サービス 運営事業	延べ利用者数(人)	1,501	1,310

事業	項目	松阪	嬉野	飯高
居宅介護支援事業	延べ利用者数(人)	4,020	4,417	2,352

事業	項目	松阪	嬉野	飯高
介護保険認定調査事業	調査件数(件)	4,213	918	310

2 障がい者福祉サービス

事業	項目	松阪	飯高
移動支援サービス事業	延べ利用者数(人)	28	22
	延べ利用回数(回)	30	72

事業	項目	松阪	飯高
居宅介護事業	延べ利用者数(人)	230	139
	延べ利用回数(回)	4,438	1,557

事業	項目	嬉野
生活介護事業	延べ利用者数(人)	193
	延べ利用回数(回)	2,878

事業	項目	松阪	嬉野	飯高
就労継続支援B型事業	延べ利用者数(人)	166	215	201
	延べ利用回数(回)	2,710	3,416	3,664

事業	項目	三雲	飯南
多機能型事業	延べ利用者数(人)	283	379
	延べ利用回数(回)	5,177	6,412

事業	項目	嬉野	三雲	飯南	飯高
日中一時支援事業	延べ利用者数(人)	12	29	269	15
	延べ利用回数(回)	41	270	1,630	97

事業	項目	三雲	飯高
外部サービス利用型 共同生活援助事業	延べ利用者数(人)	48	84
	延べ利用回数(回)	1,424	2,364

事業	項目	三雲
短期入所事業	延べ利用者数(人)	40
	利用日数(日)	312

事業	科目	松阪
障がい者特定相談事業・ 障がい児相談事業	対応件数(件)	717

3 その他の福祉サービス

事業	項目	松阪	飯高
福祉有償運送事業	利用者数(人)	12	43
	延べ利用者数(人)	24	113